

大森 惟中
博物新編後集
動物部
一之卷



特 37
43 502

四
一
本

052903-000-9

特 37-502

博物新編後集 第1卷 動物部

大森 惟中 / 編

M8

CAA-0247



明 治 八 年 新 鑄

大森惟中 編纂
莊原和 校字
吉田喜聞 助譯

博物新編後集

東京書舖 青山堂發兌

題辭二首



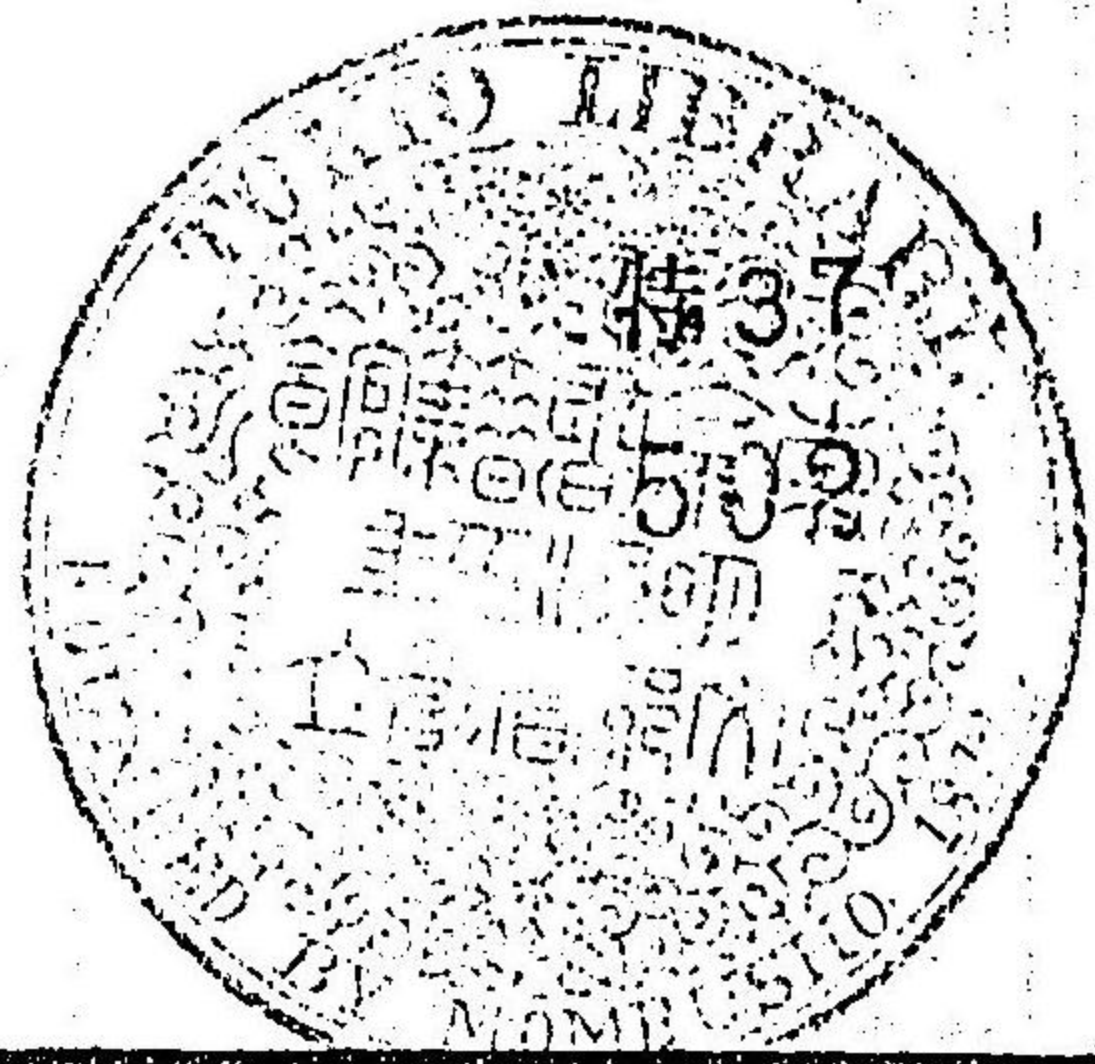
明治八年五月

譯解分明。博物編。孤燈午夜。眼
光寬。使人益智。廣聞見。小邑大
都。均可傳。

久約。磨二弁。序言深慙。譯述苦
紛煩。知君與我。同情味。筆硯蕭

特37

532



明 治 八 年 新 鑄

大森惟中 編纂
莊原和 校字
吉田喜聞 助譯

博物新編後集

東京書館青山堂發行

題辭二首



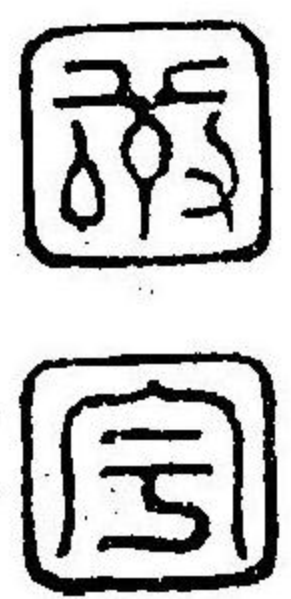
明治九年圖書寮交付

譯解分明。博物編。孤燈午夜。眼
光寬。使人益智。廣聞見。小邑大
都。均可傳。

久約。磨二弁。序言深。慙譯述。苦
紛煩。知君與我。同情味。筆硯蕭

然晝掩門。

敬宇中邨正直



雪江關思敬書



題言

一動植ノ學ハ並ニ博物ノ一部タリ、英人合信氏ノ博物新編論鳥獸ニ及ニテ鱗介昆蟲ニ及ハス、唯其總圖ヲ第三集ノ卷首ニ出タス、而レテ植物ハ全ク之ヲ闕ク、蓋レ作者之ヲ為スニ意アリテ偶タマ未タ違アラサルナリ、余曩ニ譯解ノ舉アリ、深ク此ヲ以テ憾ト為ス、故ニ今自ラ揣ラス、米人 *Shumblers* 氏ノ動物書ニ原シキ、旁ラ英人 *Mummers* 氏ノ博物書叢 *Selection* 氏ノ博物字書及ヒ米人 *Rowley* 氏ノ動物書等

ノ數本ヲ鈔シ、後集ヲ輯譯シ、前書ノ漏ラス所ヲ舉ク、第一卷ヨリ第七卷ニ至ル、第八卷以下ハマサニ植物ヲ論セントス、抑モ亦前人ノ意ニ頁カサラン、

一 *Shaw's* 氏ノ書、每族章ヲ別ク、每類級ヲ定メ、區分明晰、秩然序アリ、今此ニ依ル、故ニ前書ノ體裁ト同シカラス、

一 圖形ハ必ス各類ノ首ニ出シス、每圖原名ヲ舉ケ號數ヲ附シ、而シテ論中動物ノ名下ニ於テ茅幾圖ト注記ス、其圖ナキモノハ本文直ニ原

名ヲ注ス、

一 動植ノ名、義譯ノ下ニ難ク、又漢名ナキ者ハ、原名ヲ以テ書シ、傍ラ國音ヲ附ス、地名人名ノ如キ、既ニ漢人ノ音譯ヲ經テ、舊ク世ニ行ル、者ハ、此ヲ用ク、否ラサルハ亦書スルニ原字ヲ以テス、

一 編中尺度里數ニ英法ヲ用キ、本邦ノ制ニ改算セス、其一里ハ我零里四零九七七ニ當リ、其一尺ハ我一尺零四釐ニ當ル、讀者錯看スルナカレ、

一此書間、文冗長ニ涉リ語繁複ヲ覺ユル者アリ、
余ノ淺學ナル、若シ強メテ簡約ヲ旨トシ、一概
勾竄セハ、恐ラクハ原意ヲ失フアラシム、故ニ爾
ラサルヲ得ス看者恕スルアラハ幸甚、

大森惟中博物新編後集總目

第一卷

動物學總論

有脊部

有脊部總論

第一章 爬行族 有脊部一

爬行族總論

第一級 龜類論

第二級 海脚蛇類論

第三級 鑲甲類論

第四級 脚蛇類論

第五級 蛇類論

第二卷

第二章水陸並生族 有脊部二

水陸並生族總論

第一級無尾類論 第二級火蛇類論

第三級有肺腮類論 第四級無鰓類論

第五級裸蛇類論

第三章魚族 有脊部三

魚族總論

第一級剛鰭類論 第二級柔鰭類論

第三級軟刺類論 第四級無腹翅類論

第五級球腮類論 第六級齔腦相連類論

脆骨魚總論

第七級鼓腮類論 第八級扁口類論

第九級圍口類論

第三卷

搭節部

搭節部總論

第四章昆蟲族上 搭節部一

昆蟲族總論

第一級甲蟲類論 第二級直翼類論

第三級四明翼類論

第四卷

第四章昆蟲族下搭節部一

第四級四翼類論

第五級齊翼類論

第六級不齊翼類論

第七級鱗翼類論

第八級兩翼類論

第九級毛翼類論

第十級扇翼類論

無翼昆蟲總論

第十一級無翼類論

第十二級寄生類論

第十三級有刺足類論

第五卷

第五章無鬚族

搭節部二

無鬚族總論

第一級有氣管類論

第二級有肺類論

第六章有殼族

搭節部三

有殼族總論

第一級十足類論

第二級口足類論

第三級腸足類論

第四級領足類論

第五級齊足類論

第六級雙殼類論

第七級葉足類論

第八級隻目類論

第九級大介類論

第七章夥足族 搭節部四

夥足族總論

第一級水甲類論 第二級蜈蚣類論

第八章串圈體族 搭節部五

串圈體族總論

第一級背鰓類論 第二級管生蟲類論

第三級蚯蚓類論 第四級吸血類論

第九章縞足族 搭節部六

縞足族論

第十章輪微蟲族 搭節部七

輪微蟲族論

第十一章體內蟲族 搭節部八

體內蟲族論

第六卷

柔體部

柔體部總論

第十二章首足蟲族 柔體部

首足蟲族總論

第一級兩鰓類論 第二級四鰓類論

第十三章翼足族 柔體部二

翼足族論

第十四章匐腹族 柔體部三

匐腹族總論

第一級有肺類論

第二級表腮類論

第三級裏腮類論

第四級片腮類論

第五級異足類論

第六級栳腮類論

第七級管腮類論

第八級楯腮類論

第九級環腮類論

第十五章負殼族 柔體部四

負殼族總論

第一級螺類論

第二級沙蜆類論

第三級 *Vanuxem* 類論

第四級螺蛳類論

第五級鑽船蟲類論

第十六章有袋族 柔體部五

有袋族總論

第一級 *Sticilia* 類論 第二級 *Stylos* 類論

第七卷

射形部

射形部總論

第十七章顯微鏡蟲族 射形部一

顯微鏡蟲族論

第十八章蠅皮族 射形部二

蠅皮族總論

第一級海星類論 第二級海蛸類論

第三級 *Polysiphonia* 類論

第十九章蕨藻蟲族 射形部三

蕨藻蟲族論

第二十章多足族 射形部四

多足族總論

第一級水螅類論 第二級兜藻類論

第三級 *Actinoptera* 類論

第四級 *Microzooids* 類論

第二十一章海綿族 射形部五

海綿族論

第八卷以下植物ヲ論ス、總目別ニ出ス、

大森惟中博物新編後集總目

東洋書局

大森惟中

中博物新編後集第一卷

茨城 吉田喜聞 助譯

東京 莊原 和 校字

動物學總論

動物學ハ、博物學ノ支派ニシテ、諸動物ノ體狀ト性質トヲ講明シ、之ヲ植物ニ別ツ所以ナリ、世象ヲ指シテ櫟ト為シ、昆蟲ヲ認メテ草ト為シ、海藻ヲ錯テ魚ト為ス者ナシ、然レトモ傳ル所ノ説未タ確トスルニ足ラス、憑ル所ノ論多クハ實ヲ失フアリ、故ニ苟モ能ク之カ階級ヲ定メ以テ之ヲ

考究セハ、則チ蒙ヲ發シ惑ヲ解ク、大ニ昔日ニ異ナルアラン、夫レ動植ノ別タル、各食フ所ヲ殊ニス、植物ハ自ラ運動スル能ハス、炭酸水窒ノ四素ヲ吸ヒ、以テ根葉ヲ繁育シ、動物ハ穀肉果菜ノ四味ヲ食ヒ、運動シテ之ヲ化シ、以テ身體ヲ長養ス、蠓カキハ一處ニ定住シ身遷動セス、幾ント植物ノ如キアリ、生機ノ發之ヲ植物ニ比スレハ、蛛ニ顯著ナラス、然レトモ其體狀ヲ驗スルニ、内部ニ心臟アリ、消化ノ機關ヲ具ヘ、周圍纖維筋アリテ密纏ス、以テ其動物タルヲ徵ス、顯微鏡蟲ハ其體狀徵候

スル能ハス、而シテ其感覺通ルカニ植物ニ異ナリ、以テ其動物タルヲ證ス、海綿ハ既ニ體狀ノ徵スヘキナク、又感覺ノ證スヘキナク、全ク生機ナキ者ニ似タリ、考究ノ士之ヲ決スル頗ル艱カシトス、而シテ其全形動物ニ類似スルヲ以テ、竟ニ之ヲ動物ニ收入セリ、之ヲ槩スルニ動物學ノ形質ヲ察視スル、類似セルハ併セ、別異ナルハ分チ、以テ階級ヲ設定ス、若シ其各物ニ就キ細微ノ理ヲ窮メント欲セハ、則チ別ニ解剖學ト性理學トニ由テ知ルヘシ、昔時ノ究理家、蝙蝠ヲ鳥類ニ列シ、鯨

鯢ヲ魚類ニ收ム、是其外貌ノ大ニ同シキニ由ル
ト雖トモ、然レトモ其生活ノ法ヲ按スルニ、ニッ
者並ニ胎生ニシテ乳哺シ、魚鳥ノ卵生ナルカ如
クナラス、故ニ之ヲ獸類ニ係ケサルヲ得ス、凡ソ
動物ノ父子相續ク者、其狀些異アリト雖トモ、大
率相同シ、固ヨリ一類トナス、而シテ其枝分レテ
他ノ形體ヲ創造スル、之ヲ種トナス、其本同シカ
ラサル者之ヲ異種トナス、若シ一種ニシテ其廣
布スル所互ニ相異ナルヲ明ニスルハ、亦之ヲ名
ケテ異種トナス、猶人類ノ五種アルカ如シ、カハルコ蜥斗

ノ蛙ニ於ル、アマガエル蝦蟇ノ蝶ニ於ル、同種ニシテ異狀ナ
リ、然レトモ之ヲ察セサレハ、獨リ錯テ異種トナ
スノミナラス、遂ニ異族ニ屬スルニ至ル、鳥類中
年齒ノ期雌雄ノ性ニ因テ、羽狀ヲ異ニスル者ア
リ、若シ之ヲ察セサレハ、必ス異種トナスノ謬アソビアリ
、是此學ノ講明セサルヘカテサル所以ナリ、其
階級ヲ定ムルノ例形體ノ相彷彿セル者ヲ一種
トシ、種ノ最モ近似セルヲ一屬トス、各屬ヲ合セ
テ一類ヲナシ、各類ヲ彙アツメテ一族トナス、故ニ族
ハ數多ノ類屬ヲ統括ス、其種相懸隔スト雖トモ、

其須要ナル性質ハ自ラ同一ナリ、以テ動物ノ一
大部ヲ集成ス、大部中又其性質ニ隨テ四小部ヲ
分ツ、一ニ曰ク有脊部、(Vertebrata) 脊骨アルノ者ナ
リ、脊梁ノ上端腦骨ヲ成シ、下端尾骨ニ接シ、兩側
枝分シテ脇骨ヲ造シ、再クヒ前ニ到リ湊合シテ
胸骨ヲ成ス、轉動ノ機械各異ナルアリト雖トモ、
其運營ヲナスハ一ナリ、即チ人ノ手足獸ノ蹄脚
鳥ノ翼脛魚ノ鬣翅等ノ如シ、視聽嗅味ノ四官皆
頭ニ在テ、獨リ覺ノ一官週體ニ普及ス、口ニ上下
ノ腭アリテ齒牙ヲ列置セリ、二ニ曰ク搭節部、

Arachnida 骨節外部ニ在リ、關節相搭連シテ體ヲ成
ス者トス、蝦蟹ノ如キ是ナリ、脚數六ニ下ラス、其
齧左右ニ開闔ス、其行動ヲナス有殼族ハ足ヲ以
テシ、昆蟲族ハ翼足ヲ以テシ、蛭蚯蚓ノ如キハ足
ナクシテ蠕行ス、此部中昆蟲ヲ以テ最モ著明ナ
ル者トス、三ニ曰ク柔體部、(Mollusca) 其體ノ柔ナ
ルニ因テ名ツク、脆軟ナル體被アリ、甲殼アル者
ハ殼體ニ稱ハズ、其片面連結セスレテ、屢々身ヲ
殼外ニ抽出ス、然レトモ蝸牛ト蛞蝓トノ如キハ、
一ハ之ヲ具ヘ、一ハ之ヲ缺ク、四ニ曰ク射形部、

星魚ノ類是ナリ、圓體ニシテ中心ニロアリ、數條ノ光線ヲ發射ス、間、草木ノ狀ヲナス者アリ、故ニ通常之ヲ草木動物ト名ツク、此部中多足族ヲ以テ最著ノ屬類トス、搭節部以下ノ三部、並ニ皆脊骨ナキノ動物タリ、

有脊部總論

動物中、骨ノ體內ニ流ルセルヲ有脊部ト曰フ、四部ノ第一ニ居ル、其骨格タル一柱ノ脊梁ヲ具ス、脊中髓アリ、上端擴張シテ一ノ骨匣ヲ成シ、腦髓ヲ藏貯ス、四肢或ハ翅翮等アリテ動作ヲナス、其數四以上ニ過ルナシ、血色殷紅ニシテ五官ノ用ヲ備フ、故ニ頗ル勤カアリトス、之ヲ脊骨ナキノ族ニ比スレハ、造體最モ周密ニシテ稟性最モ靈知ナリ、今其形體ニ因テ其族類ヲ別チ、詳載スル次ノ如シ

其階級ヲ設立スル、今テ三大類トナス、元質各殊ナリ、水中ニ居ル所ノ一大群アリ、形體特ニ水ニ在テ動運スルニ便シ、膜アリテ以テ遊泳ス、須臾モ陸地ニ居ルヲ得ス、之ヲ名ツケテ魚ト曰フ、又一大群ノ空中ニ飛翔スルヲ見ル、體中膜アリ、膜上衣被アリテ、フク襖カ包シ、此ヲ以テ其體ヲシ支ツク撐シ、疾速ノ動カヲ起ス、是ヲ鳥トナス、第三ノ大群ハ則チ獸ナリ、大陸ニ處リ、地表ニ動走ス、水ニヒ潛カ躍スル能ハス、氣ニシ騰カ翥スルヲ得ス、獸類中又二族ヲ別ツ、一ヲ熱血トナス、體中ノ熱大氣ノ溫度ニ比

スレハ最モ高レ一ヲ寒血トナス、體熱常ニ大氣ニ隨テ變遷ス、或ハ僅カニ大氣ノ上ニ出ルモノアリ、熱血ナルモノハ胎生ナリ、毛皮アリテ體ヲ蔽フ、是ヲ走行族(Quadrupeds)ト曰フ、シ乳ノ哺シテ長育ス、故ニ又乳獸族(Mammalia)ノ稱アリ、禽族ノ上ニ列シ、人類亦此中ニ居ル、寒血ナルモノハ卵生ナリ、鱗介アリテ身ニ被ル、是ヲ肥行族ト曰フ、前集介類ト稱スル者此ニ屬ス、禽族ト魚族トノ間ニ列ス、魚族之ニ次ク、其飛走ノ二族ハ載セテ前集ニ在リ、今肥行族以下ヲ將テ下ニ説明ス、

爬行族 (Reptiles) ハ卵生ニシテ寒血ナリ、其生育ノ法、大氣ヲ呼吸シテ之ヲ内竅ニ納ル、鳥獸ノ二族ニ同シ、大半陸地ニ居ル、水ニ棲ム者ハ水面ニ呼吸ス、心臟ニ三竅アリ一ハ血ヲ肺臟ニ受ケ、一ハ血ヲ週身ヨリ收ム、一ハ則チ純血ト不純血ト其内ニ在テ相混合シ、一令ハ肺臟ニ推入シ、一令ハ週身ニ輸送ス、故ニ心臟ヨリ^極發スル所ノ血液身ニ^冷及セスシテ、常ニ大氣ノ^勢力ニ^攪拌セラレ、以テ^勤力ノ^滑鈍ナルヲ致ス、其動運爬行ト游行トニ過キス、又能ク^趨走セリ、資性率^不懶

情ニシテ、食物ノ消化最モ遲緩ナリ、寒温二帶ノ地ニ在ル者ハ、其冬ヲ度ルノ狀頗ル^蠢愚トス、凡ソ有脊部中、同族ニシテ形體ノ相異ナル太夕遠キモノハ、爬行族ニ如クハナシ、龜ヤ蟾蛇ヤ蛇類ヤ、人皆視テ殊族トナス、然レトモ其性質相同クシテ幾ント判別スヘカラス、而シテ特ニ別種ノ一群ノ俱ニ班列シ難キ者アリ、其全ク生長スル狀、爬行族ト大略相符シ、世人已ニ此ヲ爬行族ニ係屬セリ、然レトモ其形狀昆蟲ノ如ク變化スルノ一種ツリ、是ヲ蛙ト曰フ、蟾蛇及ヒ蛇類ノ形ヲ

負載スルノ數屬ヲ統括セリ、裸體ニシテ柔二類ノ鱗體ナルカ如クナラス、生長ノ法亦全ク異ナリ、其始メテ生ル、喚テ蝌斗ト做ス、性狀魚ノ如ク、稍大ナレハ則チ形變ス、故ニ之ヲ爬行族ニ列スルヲ得ス、考究ノ士特ニ一級ヲ創設シ、名ケテ水陸並生族 (*Ampeliscidae*) ト曰フ、以テ此種ヲ收載ス、魚族 (*Pisces*) ハ卵生ノ有脊椎ニシテ、常ニ水中ニ栖居ス、其生活ノ理ヲ按スルニ、鰓ニ賴テ呼吸ス、鰓ハ線狀ニシテ整長ナリ、而シテ周圍ノ水中ニ含包スル所ノ大氣ヲ引攝シ、血ヲ鰓内ニ遞致ス、

心臟ニ二竅アリ、一ハ全身ヲ週迴スル所ノ血ヲ接收シ、一ハ則チ鰓ヲ透シテ血ヲ推進シ、血管ニ由テ遍身ニ流環セシム、大率寒血ナリ、然レトモ或ハ其體ヲ圍包スル所ノ水ヨリ温カナル熱度ヲ保有スル種屬アリ、體水ニ抵抗スルノ重量ヲ有セス、只水ニ游泳スルノ功用ヲ具ス、故ニ其造法鞏固ナラスシテ轉動ヲ為スニ適セシム、其進行ノ運動ヲ起ス、首トシテ竅モ柔軟ナル脊骨ノ勢力ニ因テ整齊ス、其脊椎胎生獸ノ如ク平面ナラス、又蛇類ノ如ク杵臼交節ナラス、每椎凹處ヲ

ナレ而シテ椎間ニ挿入スル所ノ水胞ヲ覆歴ス、
尾蹼ニシテ扁ナリ、此ヲ以テ左右ニ掉撥シ、魚體
ヲシテ前ニ向ハシメ、進行ヲナス、猶船ノ舵ニ於
ルカ如シ、鰓翹ハ手ノ如ク、腹翹ハ足ノ如ク、以テ
浮沈潛游ノ用ヲナス、又腕骨ノ種屬アリ、脊骨椎
節ヲトサスレテ、軟骨或ハ筋膜ノ連續シタル一
筒ヲ具フルモノナリ、凡ソ魚體ハ鱗アリテ之ニ
被ル、或ハ代ルニ骨ヲ以テスル者アリ、其内部ノ
造格柔脆ナルハ、外面ノ骨殊ニ密合セリ、

有脊部一

第一章 爬行族

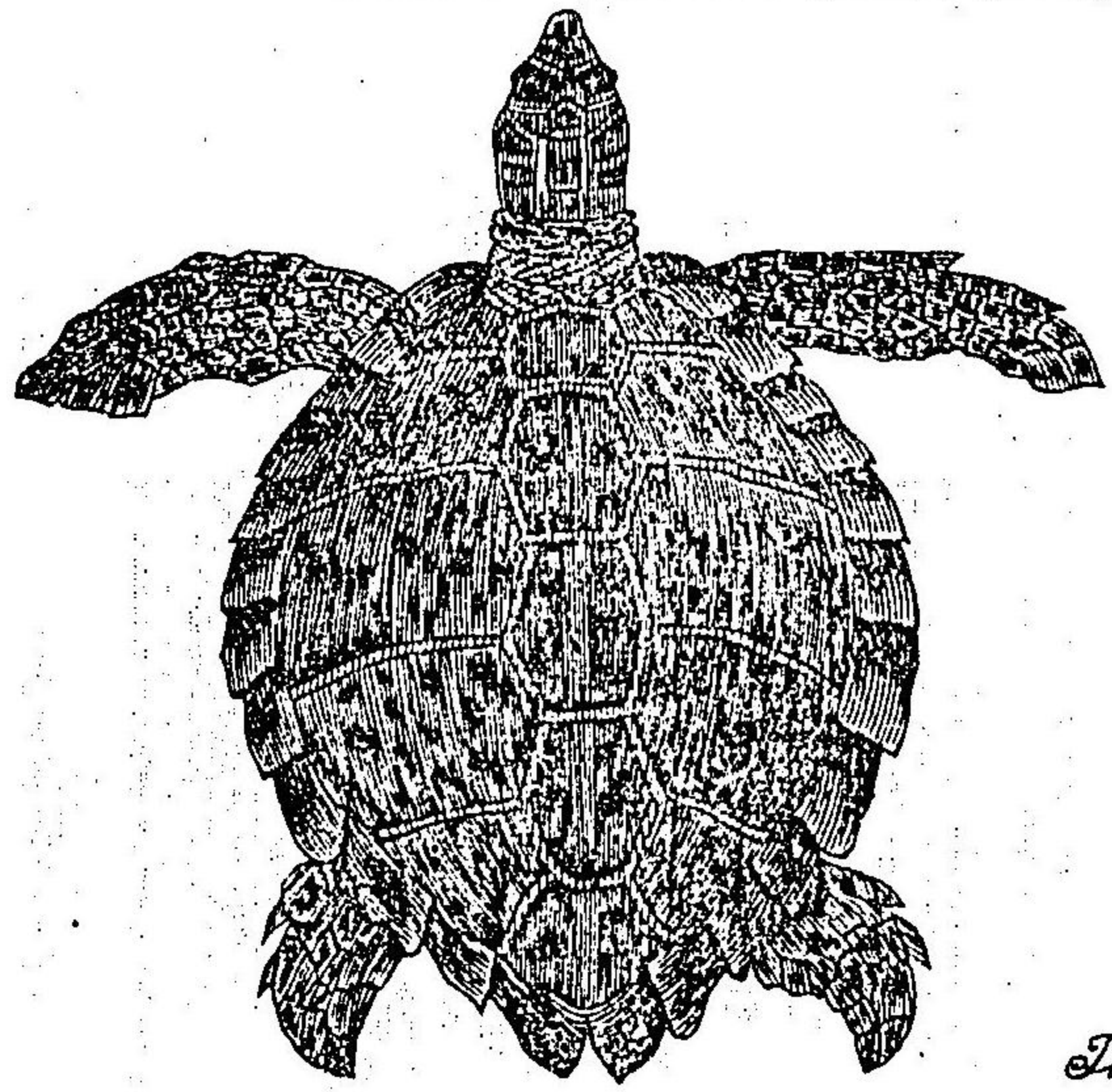
爬行族總論

爬行トハ何ソ、地ヲ爬シテ行クナリ、凡ソ動物ノ
地ヲ爬シテ行ク者は、爬行族トス、其族鳥獸ノ
如ク夥多ナラス、寒温熱ノ三帶、熱地最モ多シ、其
動作スル、他ノ有脊動物ニ類スルモノアリ、然レ
トモ其器械ハ全ク同シカラス、脛脚獸ニ異ナリ、
或ハ行キ、或ハ走リ、或ハ躍ル、飛フ者翼翹ヲ須斗
ス、游ク者鬣翹ヲ藉ラス、體毛羽ナク又乳房ナシ、

足尾獸ニ似テ其實ハ魚質ナリ、鱗瓦狀ナルアリ、
甲角質ナルアリ、魄膜其上ニ被フ、脆薄ニシテ銷
レ易シ、二族アリ一ハ甲族龜鱉ノ類是ナリ、一ハ
鱗族蟾蛇及ヒ蛇ノ類是ナリ、其小族ハ骨法同一
ニシテ並ニ腦蓋ナシ、大族ハ之アルモ率ネ小ナ
リ、又兩頤ノ凸出スルニ由テ頭狀ノ大ナルヲ致
ス者アリ、五官ノ用視官ヲ以テ寂トス、聽官人鱷
魚ヲ除クノ外、僅カニ之ヲ具ヘ若クハ全ク聾ナ
ルアリ、味官嗅官ノ如キモ亦寂モ完備スルモノ
アラス、其類ヲ別ケテ五級ヲナス、一ニ曰ク龜類、

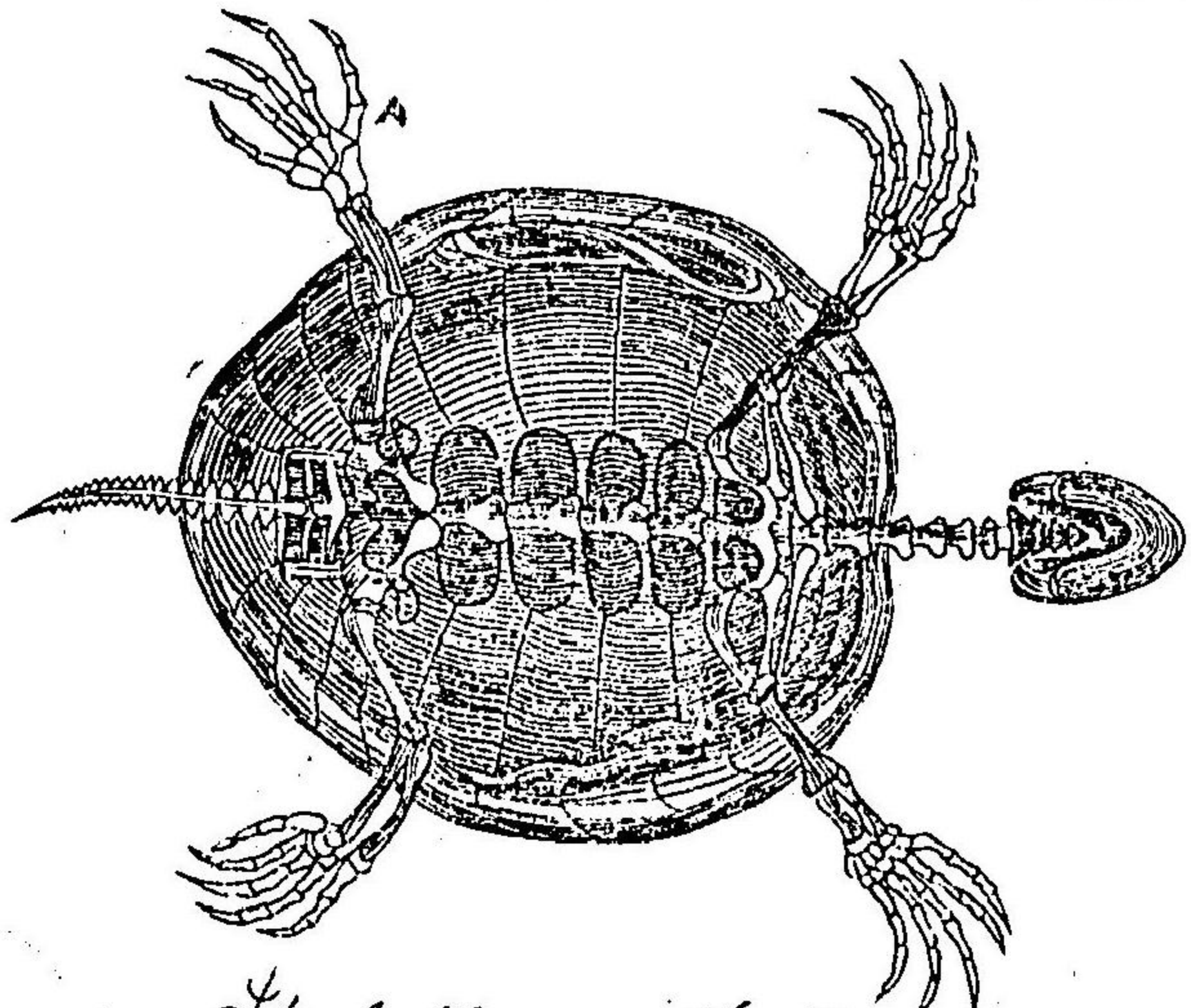
Chelonia 二ニ曰ク海脚蛇類、*Galiumaria* 魚蛇ノ
如キモノ此ニ屬ス三ニ曰ク鑲甲類、*Salicetes* 即
チ鱉類ナリ、四ニ曰ク脚蛇類、*Sauria* 蟾蛇及ヒ
蜥蜴等ノ類ノ如シ、五ハ則チ蛇類、*Ophidia* ナリ、
其第一類第四類第五類ノ爬行族タルハ、人ノ能
ク見聞スル所ニシテ、第二類ニ至リテハ、世之ヲ
知ル者甚ク鮮シトス、其類タル龜類ト鑲甲類ト
ノ間ニ在リ、故ニ之ヲ第二級ニ列ス、鱉魚ハ狀蟾
蛇ノ如クニシテ堅甲アリ、故ニ之ヲ第三級ニ列
シ脚蛇ノ上ニ敘ス、天下爬行スル所ノ族、其數ヲ

知ラスト雖トモ亦此五級ノ外ニ出テス、



鼈 第一圖

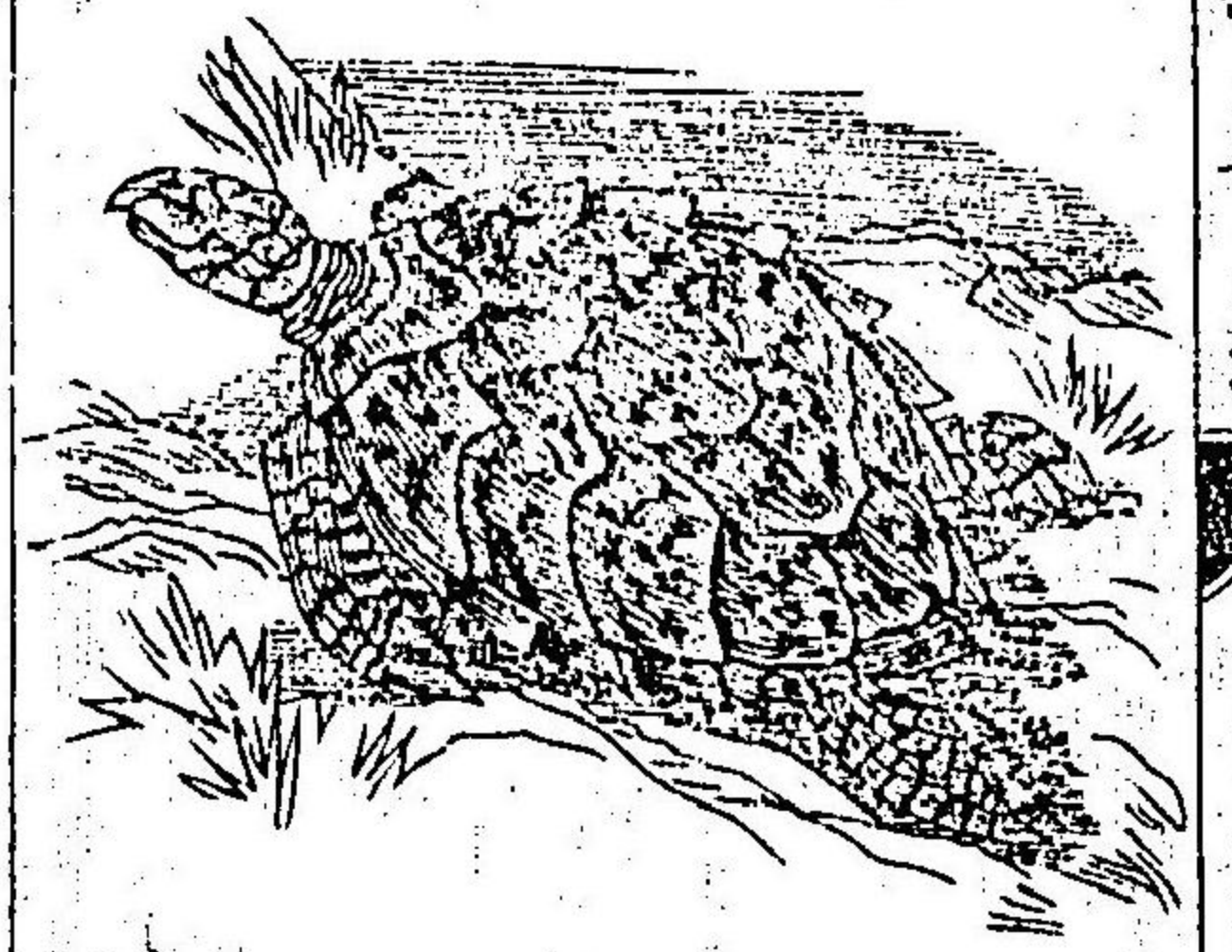
Turtle



鼈骨 第二圖

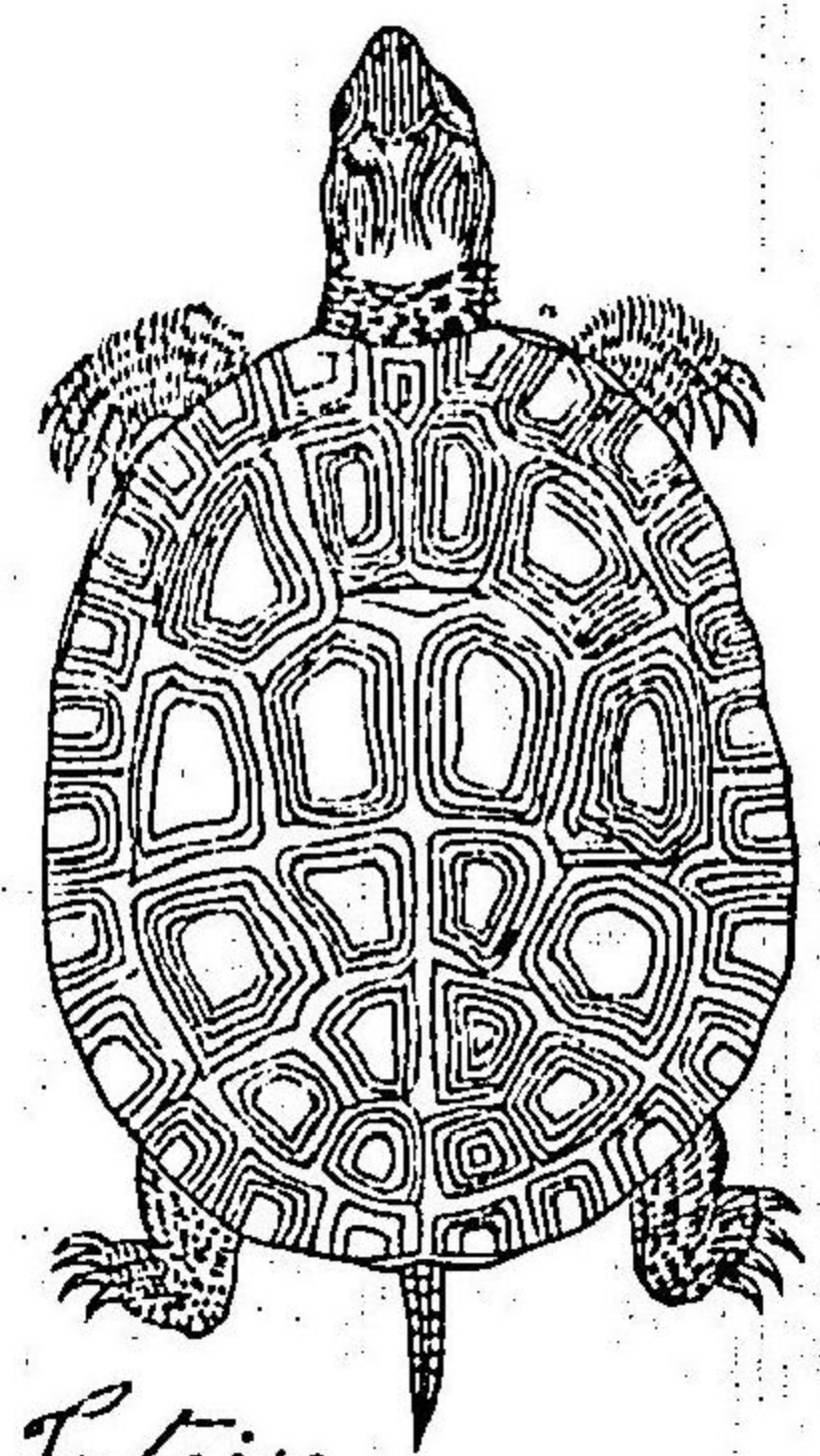
Skeleton of Turtle

鷹嘴龜 第三圖



Hawk-billed Turtle

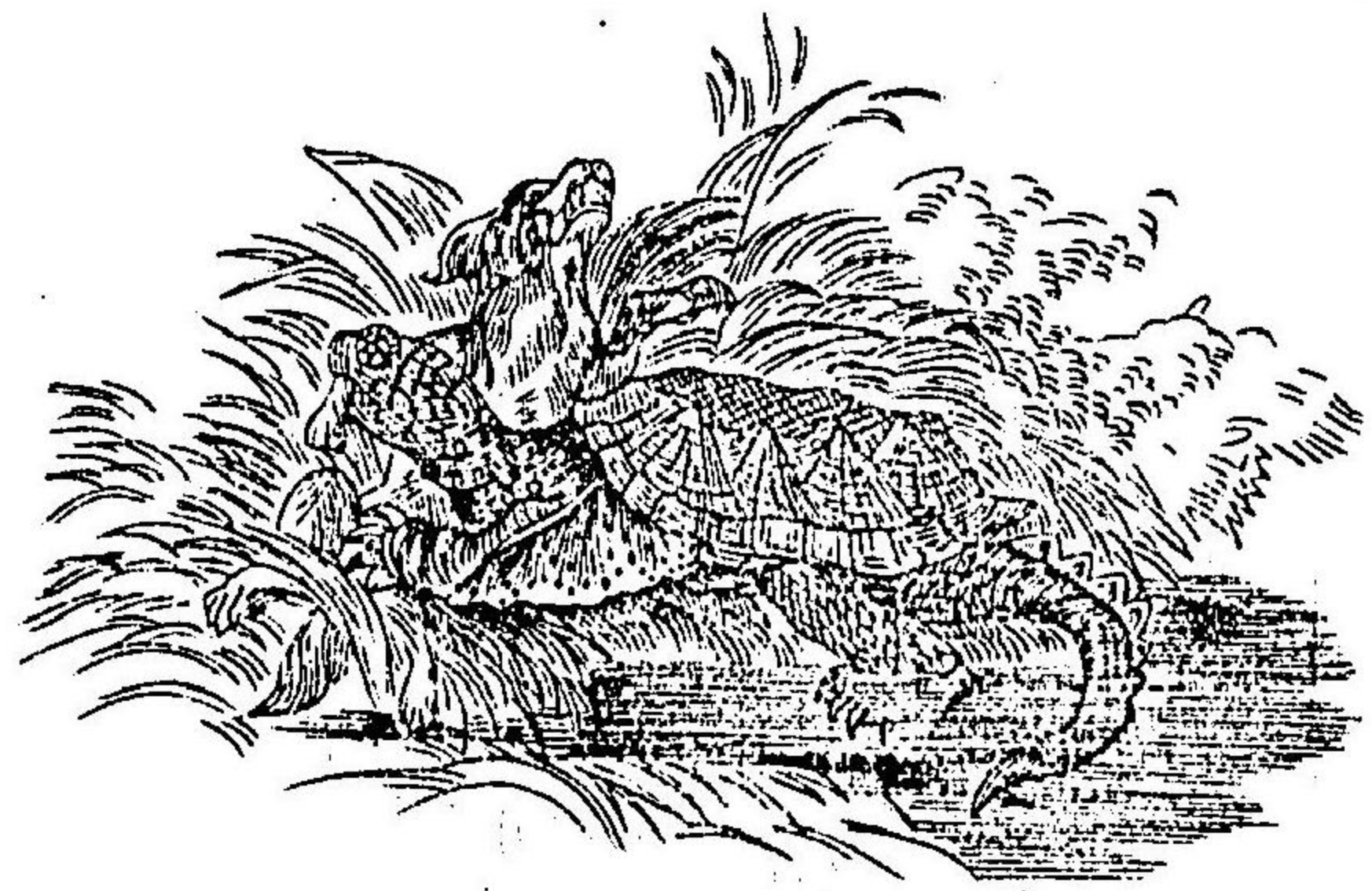
龜 第五圖



Tortoise

鱷龜

第四圖



Alligator Tortoise

第一級龜類論

凡ノ龜類ハ、介甲アリテ筋骨ヲ包裝ス、一種アリ、
 頭脚ト尾トヲ甲間ニ縮藏ス上ニアルヲ背甲ト
 曰フ、平扁ナラスレテ穹^{ツギ}狀ヲ成ス、脇骨ノ張開セ
 ル一由テ合成シ、脇邊ニ粘連^{ツギ}シテ相^{ツギ}離^{ツギ}セス以
 テ之ヲ覆^フ蓋^{ガイ}ス、下ニアルヲ胸甲ト曰フ、胸骨ノ表
 出セルニ由テ造成シ、鳥ノ喙^{クハ}ナ^クルカ如クナラ
 ス、龜ノ屬、並ニ爪牙ノ用ニ乏シク、攻撃ノ具ヲ缺
 ク、兩頰ニ硬肉角ノ如キモノアリテ之ヲ包ム、狀
 鳥嘴ノ如シ、然レトモ圓ニシテ銳ナラス、此ヲ以

テ物ヲ挫傷ス、陸種ハ介甲穹然トシテ隆ク、結合堅硬ニシテ抵抗力甚ク強シ、重物ヲ負載スルニ勝ユ、故ニ其動運ノ力孱弱ナリ、爬行徐ニシテ疾ナラス、是ヲ以テ陸地ニ於テ之ヲ捕フル最モ易シ、海種ハ甲形並ニ整區ナリ、故ヲ以テ水中僅カニ蹙力ノ抵抗ヲ受ルノミ、其慣性繩勉ニシテ、少頃モ靜居セス、甲ノ結合鬆疏ニシテ、以テ俯仰ニ便ス、故ニ其身ヲ護スルノ用ハ、陸種ニ如カサルナリ、海陸ノ兩種狀貌大抵相似テ、互ニ大小ノ別アリ、陸種ト雖トモ水ニ入テ游泳シ、海種ト雖トモ

鼈

陸ニ上リ甲ヲ曝ス、龜類中大ニシテ著ルキ者ヲ鼈第一トナス、鼈ハ食フヘシ、龜ハ食フ可ラス、介甲ノ疎大ナルト、游泳ニ便スルカ為ニ脚形ノ變異ナルトヲ以テ、他ノ龜類ト區別ス、其骨骨背甲ノ周邊ニ於テ相結合セス、胸甲壹面ノ斷板ヲ成サスレテ、軟骨ヲ以テ各片ノ甲隙ヲ綴合ス、四脚皆長シ、前部ノ雙脚殊ニ長クシテ平扁ナリ、狀船體ノ襟アルカ如シ、其趾多クハ支裂セス、全脛ト皮ヲ連ネ、皮上密ニ堅硬カクキヲ佈置セリ、食道直線ニ胃腑ニ通シ、軟骨ヲ以テ裏面ヲ裝成ス、蓋シ食ヲ

綠鼈

ナスノ際海水ヲ併セテ海藻ヲ嚙ム、嚙ミ了リテ
 水ヲ反ス、反水ノ時、食道唯水ヲ吐シテ食ヲ吐セ
 ス、大小ノ種アリ、大半海洋ニ生長シ、海藻ヲ茹食
 ス、産卵ノ期来ルニ非レハ、曾テ陸地ニ爬上セス、
 毎歳率ネ四月ヲ以テ期トス、其卵ヲ産スルヤ、先
 ツ足ヲ以テ地ヲ挖リ、産シ畢レハ又足ヲ以テ土
 ヲ其上ニ蓋フ、一産二百枚ノ多キニ及フ、支那人
 謂フ、鼈思生スト、固ヨリ無稽トナス、
 五度若クハ三十度以内ノ洋中ニ産見ス、
 最モ特

謂フ、鼈思生スト、固ヨリ無稽トナス、

五度若クハ三十度以内ノ洋中ニ産見ス、最モ特

異ナル種屬タリ、其肉甘美、之ヲ製シテ海客ノ饌
 ニ充ツヘシ、回歸二線間ノ地方ヲ航スル者、常ニ
 貯ヘテ食トトス、卵モ亦美ニレテ食フヘシ、大ニ
 貴重セリ、甲葉三十片、綠色ニシテ、
 長シ、或ハ二百餘歳ヲ歴、長サ四尺若クハ五尺
 ニ至リ、其量四百磅ヨリ八百磅ニ及フ、而シテ八
 尺ノ大、壹千五百磅ノ重ニ增長スル者アリ、古
 鼈ヲレテ長ヒレメテ後ニ食ハント欲スル者、幾
 ントマサニ其大ニ駭カントス、然レトモ巨大此
 ノ如キモノハ、小鼈ニ比スレハ味殊ニ下レリ、

ノ食ヲ覓ル多ク淺水ノ處ニ群萃シテ海藻ヲ食
フ宛モ家畜ノ藜草ニ聚リ就クカ如シ時アリテ
海面ニ浮出シ大氣ヲ呼吸シ又甲ヲ太陽ニ曝ス
常ニ洋中ニ潛居ス産期毎トニ必ス陸ニ就ク每
歲三期期至ルニ遇ヘハ便チ數百群ヲ成シ各善
地ヲ覓メ夜ニ就テ産ス是時ニ於テ平常鼈ヲ捕
テ業トナス者為メニ鼈母ヲ巡護シ以テ他日ノ
繁育ヲ期ス一産約ソ一百枚卵殼頗ル弱ニシテ
穿ナラスト雖トモ地ニ置キ土ヲ覆ヒ毫モ損傷
スルナラズ卵土中ニ在リ日熱ヲ借テ化生シ方ニ

鷹嘴鼈

殼ヲ脱スル長サ二寸ニ滿タス水中ニ浮沈スト
雖トモ身自由ナラス常ニ水力ニ乘セラル且其
甲軟弱ニシテ未タ全ク堅凝モス故ニ多ク惡獸
ノ嗜食スル所トナル牙賣加島ニ産ス東西印度
取多シ鼈ヲ捕ルノ法其岸ニ上ルヲ候ヒ背後ヨ
リ摑住スレハ則チ獲ヘシ蓋シ彼甲剛ニシテ脛
短シ故ニ敢テ脱スル能ハサルナリ但此種ノ甲
堅厚ナリト雖トモ價值絶ト昂ナラス一種アリ
鷹嘴鼈 第三ト名ツク大西洋及ヒ印度洋ニ産ス
大シ約ソ緑龜三分ノ一二過キス甲最モ善美ナ

リ、多ク採テ物ヲ製ス、龜甲中ノ貴重ナル者トス、
嘴角質ニシテ銳ク、狀鷹嘴ノ如シ、上齧ニ深アリ
下齧之ニ軟シ、以テ食物ヲ咀嚼ス、背甲十三片、文
彩常ニ異トニ硬緻亦比ナシ、狀屋瓦ノ如ク相齧
次シ、透ニ三分ノ一ヲ掩蔽ス、之ヲ製スルノ法、先
ツ火熱ヲ借テ甲片ヲ分離シ、然シテ後再ヒ熱力
ヲ以テ之ヲ柔ナラシメ、而シテ各般ノ器具ヲ造
成ス、其^{カク}硬^ク質^{カク}琢^ク粉^クハ聚メテ^{カク}型^{カク}中^{カク}ニ入シ、沸湯ノ熱
ニ由テ之ヲ^{カク}凝^ク搾^クスレハ、厚薄意ニ隨テ^{カク}凝^ク結^クシ、以
テ再ヒ器用ニ充ツヘシ、世^{カク}瑇瑁^{カク}ト稱スル者是ナリ

蠶龜

革樣鱉

リ、又蠶龜 (*Loganhead turtle*) ナル者アリ、鱉ノ大
種ナリ、地中海ニ産ス、他處ハ之ヲ見ス、重七八百
磅ニ至ル、嘗テ一千三百磅ノ鱉ヲ發見セシアリ、
取テ絶大トス、肉值貴カラス、甲價亦賤シ、然レト
モ其體脂ヲ採テ燈油ニ供スレハ、則チ價アリ、肉
モ亦食テ養氣ヲ補助スルニ足レリ、又一奇種ア
リ、革樣鱉 (*Shagbark turtle*) ト曰フ、堅甲硬鱗アル
ヲシ、柔革アリテ其體ヲ包裹ス、革長クシテ^{セシ}襪^{セシ}
如シ、頭他鱉ヨリ銳ク、齒力極ノテ強シ、嘴端最モ
尖ナリ、上齧ニ三箇ノ^{セシ}齧^{セシ}痕^{セシ}アリ、是ヲ齒トナス、^{セシ}貝^{セシ}

淡水鼈

皆堅裂之、狀貌獐惡、他ノ生物ヲシテ畏怖セシム、其長大ナル或ハ八九百磅ノ量アリ、肉美ナラス、海藻及ヒ諸水族ヲ食フ、地中海大西大平印度ノ諸洋ニ産ス、又一種淡水鼈 (*fresh water turtle*) ト名クルアリ、一名ハ泥鼈 (*pond tortoise*) 形狀鼈ト陸龜トノ間ニ在リ、指ノ極端ニ小アリ、每指ノ間解趾アリテ游泳ノ具トナス、又之ヲ以テ泥沙ヲ挑挖シ其中ニ潛居ス、江河池沼及ヒ流泉ニ居ル、食フ所水生ノ昆蟲小魚獸肉菜蔬及ヒ柔體族ナリ、甲ノ長サ一寸若クハ半寸ヨリ一尺ニ及フ、性甚ク

匣龜

鱷龜

勉ム若シ打撻ニ遭ヘハ泥中ニ伏匿シテ其害ヲ避ク、胸背ノ甲甚ク堅緻ナラス、歐洲東南ノ兩地常ニ見ルモノトス、日耳曼魯西亞ノ人ハ之ヲ食シテ頗ル珍貴トセリ、一種胸甲ノ逐次ニ相重累セルアリ、是ヲ匣龜 (*box tortoise*) ト曰フ、首脚ヲ甲間ニ藏匿シテ兩甲ヲ鎖合ス、亞美理駕ニ一種アリ、咬鼈 (*snapping turtle*) ト曰フ、一名ハ鱷龜、茅四形質龜類ト鑲甲類トヲ併混ス、龜甲ニシテ體長ク、鱷性ニシテ身捷ナリ、甲形橢圓ニシテ稍平扁泥龜ノ甲ノ如シ、頸脚頗ル長クシテ甲間ニ縮退ス

ル能ハス、尾甚シ巨大ナリ、長キト背甲ニ均シ、此
ヲ以テ別ヲナス、龜類ノ燥惡ナル者ナリ、食ヲ覓
メテ陸ニ上ル、水ヲ離レ、頗ル遠シ、大吼一發其
聲猛烈ナリ、諸獸ノ撞見スルアレハ、倏然長頸ヲ
揮テ之ヲ嚙ム、齒甚ク銳利、假令ハ棍棒ノ徑一寸
半許ナルモ亦以テ容易ニ嚙碎スヘシ、常ニ蝦蟇
ヲ食フ、他ハ水生ノ爬行族及ヒ魚鳥獸ヲ啖フ、每
ニ鰐魚ト格闘シ、能ク之ニ勝ツ、又鰐兒ヲ食フ、肉
竅モ美ナリ、故ニ之ヲ獵スル者アリ、北亞美理駕
人ハ、小魚若クハ生物ヲ餌トシテ之ヲ釣ルト云

陸龜

フ陸龜 第五 八背甲隆ク穹形ヲ成シ、脛短クシテ

足尖疎大ナルヲ以テ區別ス、甲ノ堅緻ナルヲ海

種ニ勝レリ、頸足短キカ故ニ能ク甲中ニ收藏ス、

脚形象足ニ仿タリ、坦地ヲ匍行ス、前脚五趾ニシ

テ後脚四趾、並ニ短介アリ、圓錐狀ヲ成ス、以テ鑿

掘ニ便ス、性溫柔ニシテ物ヲ傷セズ、故ニ之ヲ畜

養スヘシ、壽二百餘年ヲ經ルニ至ル、行ク極メテ

徐ナリ、然レトモ其窟ヲ造ルニ當リテ地ヲ穿ツ

竅モ速カナリ、木根菜蔬ヲ食フ、又小蟲及ヒ蠶ヲ

啖フ、夏時ハ叢林嫩草ノ裡ニ居リテ、暑ヲ避ケ涼

テトドカ

印度龜

ヲ迎ス冬ハ則チ室ヲ土中ニ作り、蟄處レテ以テ
 寒ヲ禦ク此種温熱兩帶ノ地方ニ散見セリ唯大
 不列顛國ハ偶々マ老龜アルモ本他方ヨリ遷ス
 所ニシテ種曾テ繁殖セス未タ造化ノ意如何ヲ
 知ラサルナリ、*Testudo graeca* ナル者アリ、通常
 ノ種ナリ、歐羅巴ノ南部最モ多シ、亞細亞亞非利
 加並ニ異ナルナシ地中海ノ水濱殊ニ夥シ長約
 ヲ一尺重三磅ニ及フ希臘人其肉ヲ採テ食ヲ作
 ル、印度ニ此種ノ大ナル者アリ、印度龜 (*Indian*
Galapagos) 名ツク、長三尺許、加拉巴哥島 太平洋中
赤道直下

トキリス

シキリス

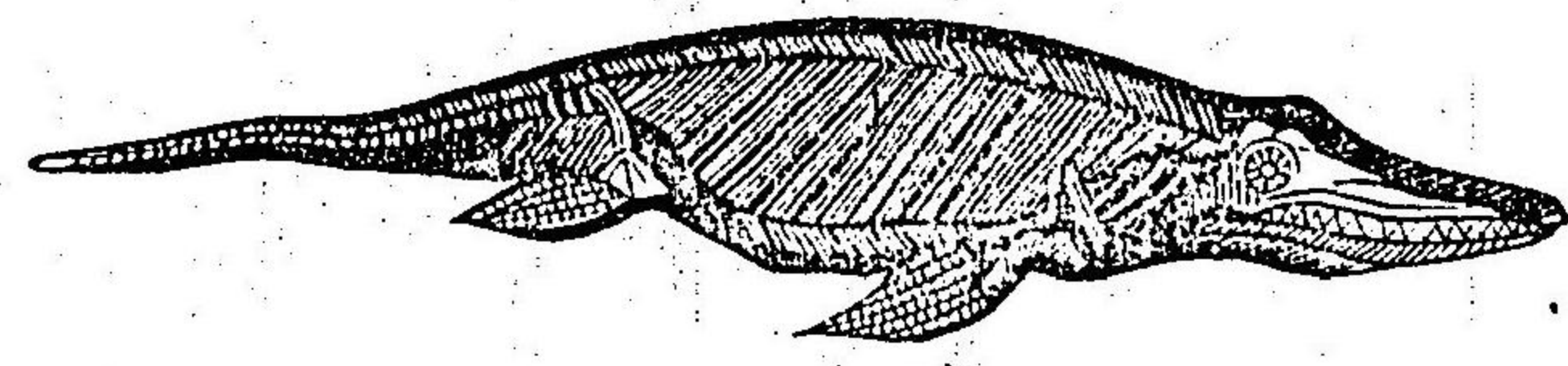
テトドカ

ノ群島ナリ、大小十三島南亞美理最モ多シ、故ニ
 駕死成多ノ西七百三十里ニ在リ、
 龜島ノ名アリ、肉味甚タ佳、肌肉脂ヲ出ダス、倫敦
 某ノ動物家ニ此龜ヲ畜養ス、頗ル大ナリ、背彎四
 尺四寸半、甲ノ濶サ二尺一寸、全體ノ重サ百八十
 五磅アリ、*Testudo* 及ヒ *Chelonia* ト名クル二種
 アリ、並ニ *Testudo* *graeca* 龜ノ如シ、此三種ノ外
 一種アリ、共ニ收列スル能ハス、柔龜 (*Soft-shell*)
 曰フ、一名 *Trionyx* 體鱗甲ナシ、柔皮アリテ筋肉
 ヲ蔽フ、邊圍ニ細微ノ縁裙アリ、其用タル魚翅ノ
 如シ、角嘴肉脣、鼻形海族ニ類セス、極端ニ鼻孔ア

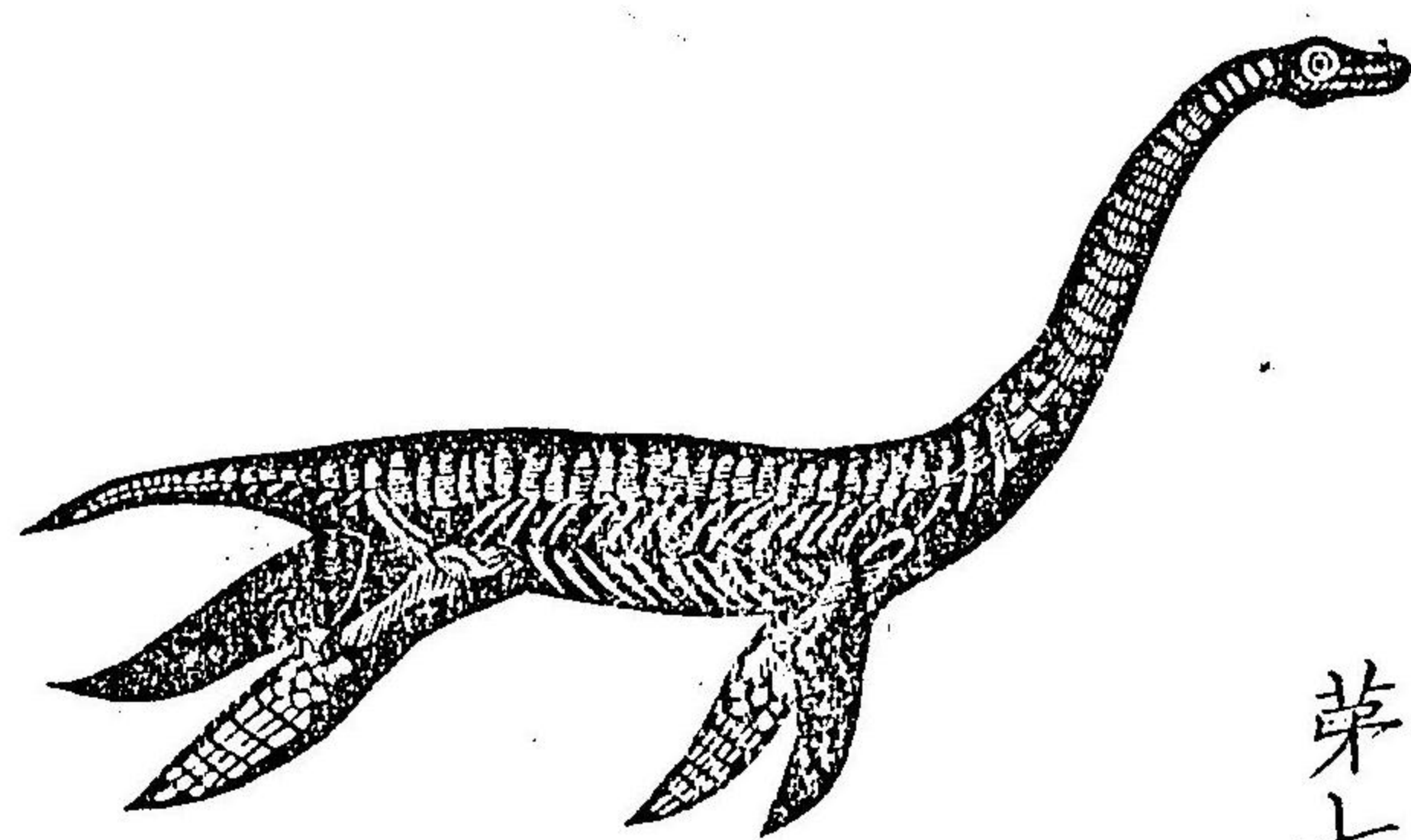
足蹠ヲ具フ淡水鱷ニ似タリ、整平ニシテ長カ
 ラス、三指ニ介アリ、冢モ强健ナル種屬トス、常ニ
 魚類ヲ食ヒ、又禽族爬行族ヲ食フ、亞細亞亞非利
 加ノ江湖ニ産ス、又北亞美理駕ニ見ユ、埃及國甚
 タ多シ、鱷ノ生レテ日ヲ經サル者ヲ捉啖フ、佛人
 埃及ヲ征スル始テ此種ヲ發見セリ、亞美理駕熱
 帶ノ地ニ居ルノ一種ハ、性頗ル猛惡、常ニ河隄ニ
 上リ、畦圃ノ中ニ伏シ、蔬ヲ蹂ミ菜ヲ茹ク、又禽族
 及ヒ小爬行族ノ來ル者ヲ啖フ、最モ鱷兒ヲ嗜食
 セリ、

魚蛇

第六圖



Gharial



プレオソール

第七圖

Platyodon

博物新編 第一卷 海脚蛇類論

第二級海脚蛇類論

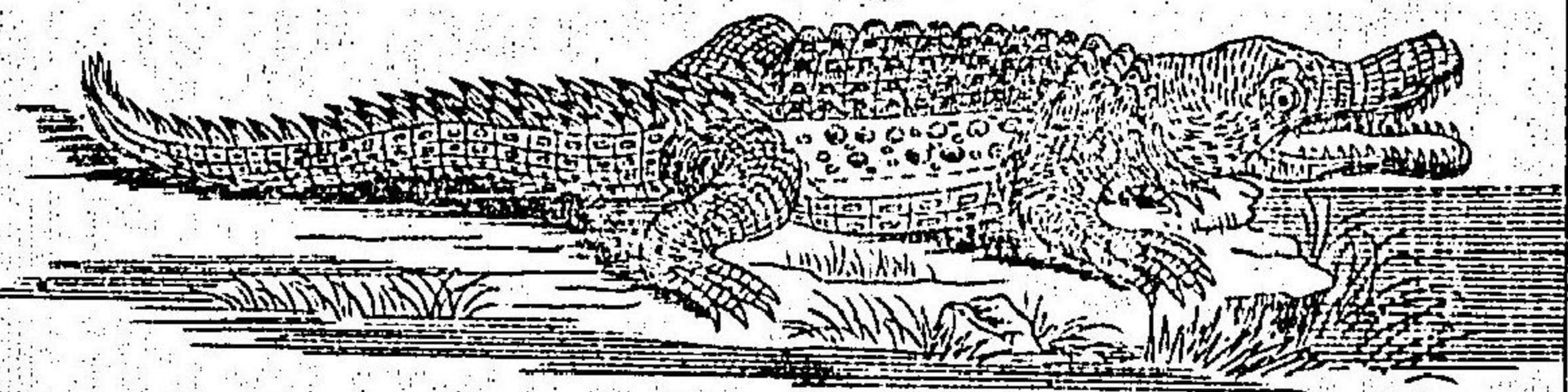
第二ヲ海脚蛇ノ級トナス、原化石體ニ憑テ^テ辨^ハ鍵^トス、故ニ其詳カナルヲ得ズ、二種アリ、一ヲ魚蛇^六ト曰ヒ、一ヲ *Plesiosaurus* 圖第七ト曰フ、人類ノ先世此土ニ居ル者トス、皆鱷類ナリ、性格龜類ト相混ス、足魚翅ノ如ク^カ漿^カ糝^カヲ成ス、鼈足ニ似タリ、故ニ是ヲ海生物トナス、其陸地ヲ爬行スル多少ノ勢力ヲ有セリ、形狀多ク魚ニ類似スト雖トモ亦水上ニ呼吸スル、凡爬行族ノ如クナルベシ、食トスル所必ス海生物ナラン、又其發見ノ地中、首足

魚蛇

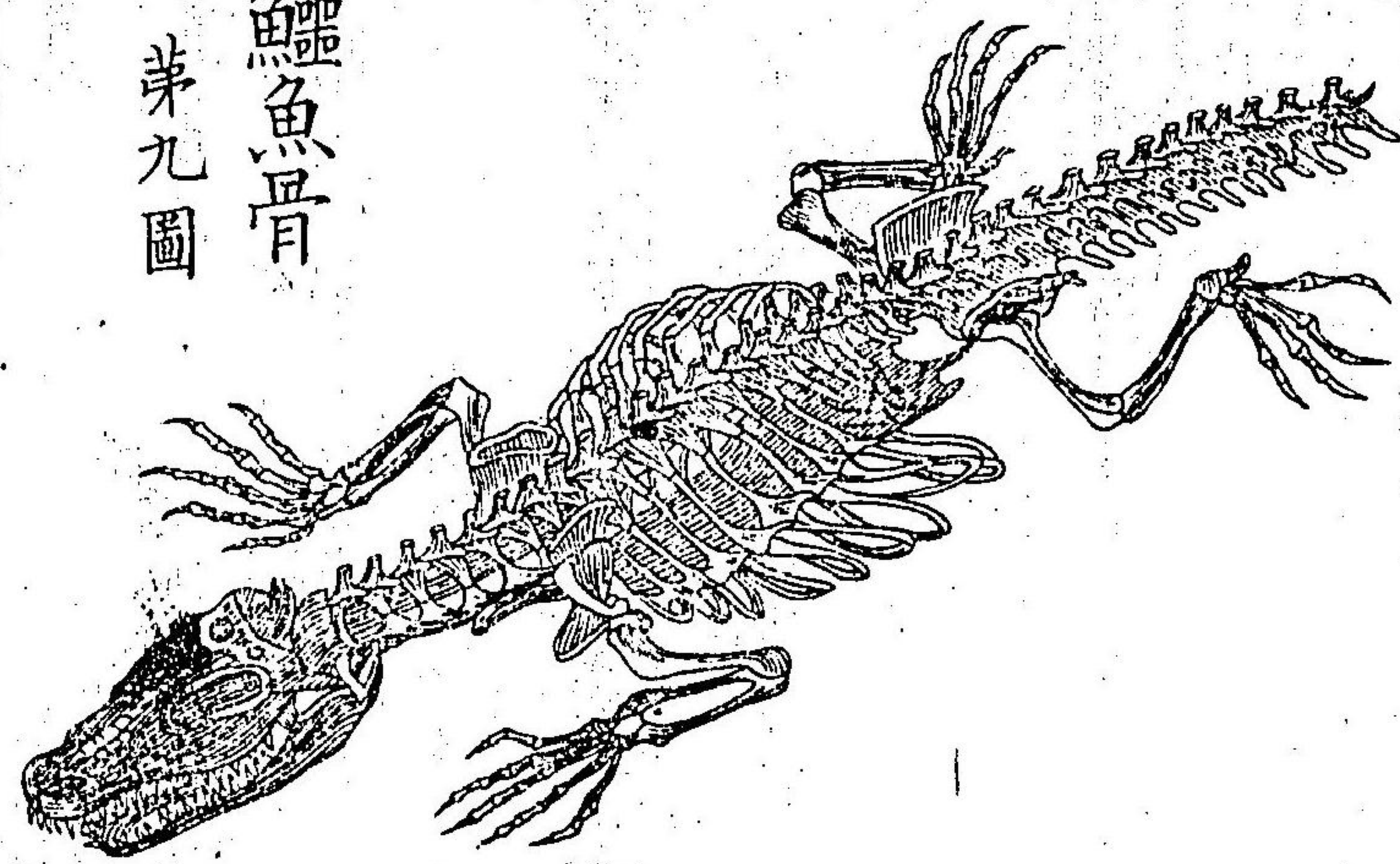
ノミヤル

蟲類ノ體アルヲ見ル、蓋シ其特ニ嗜ム所トス、魚蛇ハ形狀一般鱷魚ニ^ヨ克^ニ肖^ス、唯腦骨巨大ノ^子眼^子窠アリテ骨圈ヲ具ルヲ以テ^子獵^子猴トス、頭細長ニシテ嘴銳尖、四ノ^子撥^子足^子アリ、銳齒巨眼貌頗ル兇惡ナリ、夜中善ク視ル、^ヒ脊^ヒ椎^ヒ魚ノ如ク、每椎凹圓ヲ成ス、皮膚鱗ナク、水陸並生族ノ如シ、長サ三尺半許、或ハ三十尺ニ及フ者アリ、近來學士互ニ相研究シ、遂ニ鯨種ノ如ク脊上ニ^ヒ軟^ヒ骨ノ^ヒ鬣^ヒアルヲ發明セリ、石灰石層及ヒ^ヒ蛋^ヒ形^ヒ石層ノ中ニ發見ス、歐洲中英國頗ル多シ、*Plesiosaurus* ハ特ニ長頸ナルヲ以

鱷魚第八圖



Crocodile



Skeleton of Crocodile

鱷魚骨
第九圖

テ識別ス、頭甚ク小ク、尾短クシテ銳且強ク、頸節
 他類ニ比スレハ多シ、形狀蛇ニ似タリ、體尾獸ノ
 如ク、腸骨變色蟾蛇ノ如ク、撥足鯨ノ如ク、首ヲ翹
 テ水面ニ浮游ス、鵜立ノ狀アリ、以テ魚類ヲ撞食
 ス、地ヲ行ク魚蛇ニ較スレハ殊ニ劣レリ、然レト
 モ海濱ノ淺水ニ伏シ、來ル者アレハ頸ヲ揮テ咬
 著スルハ、疾キテ飛箭ノ如ク、頸ノ長サ約ソ十許
 尺アリ、紅沙石層ニ現出セリ、

動物新編

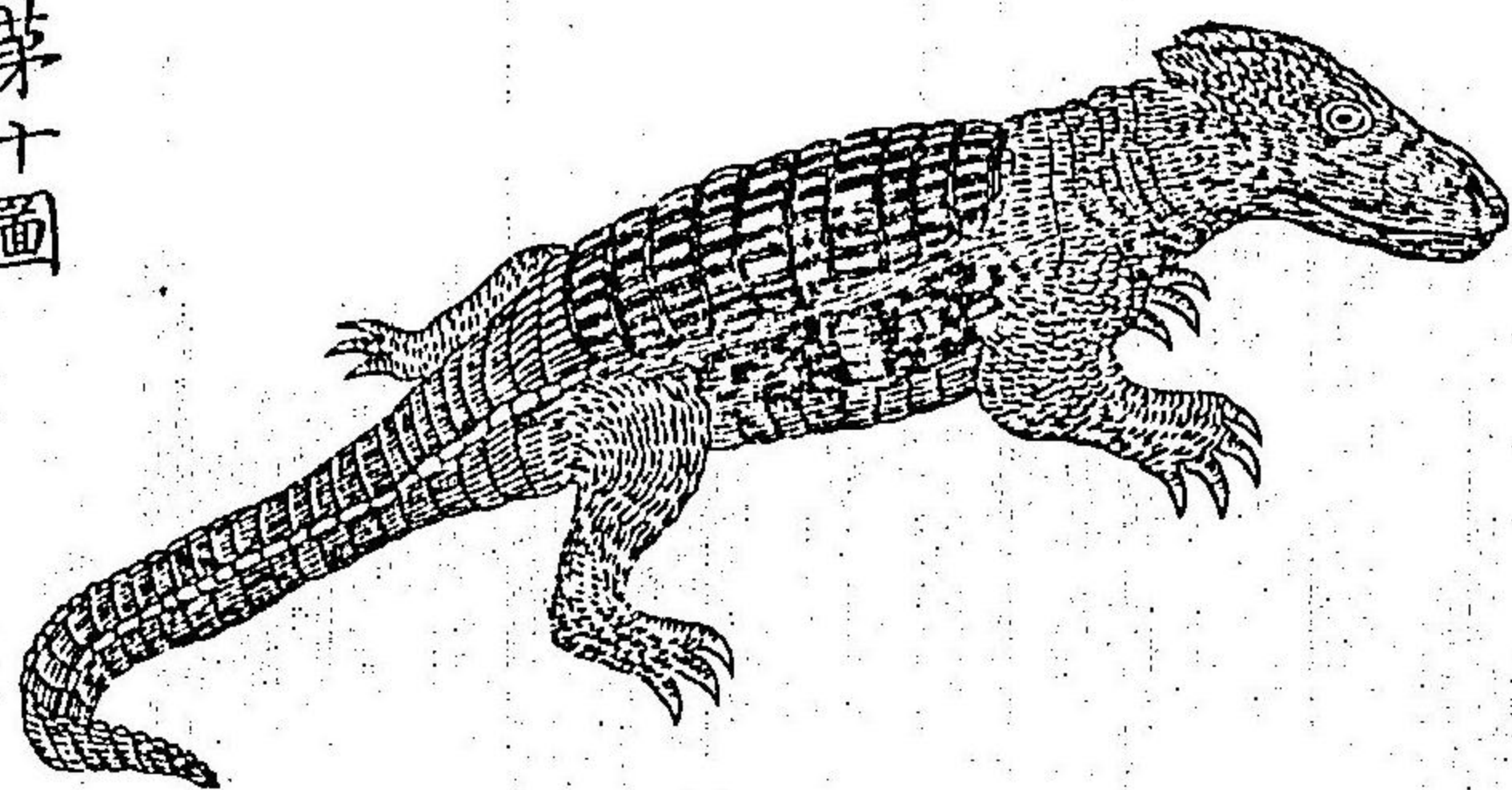
卷一

三

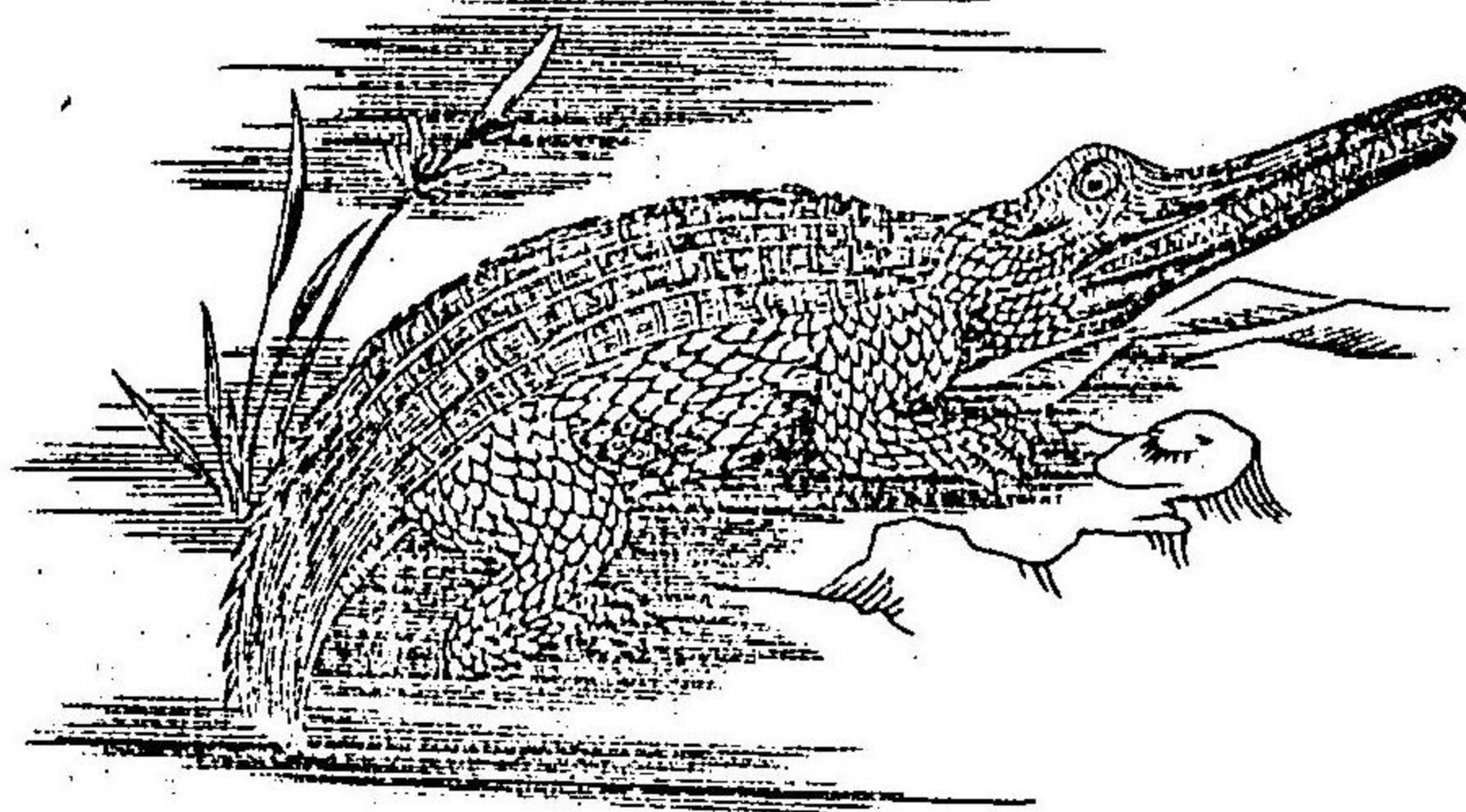
博物新編 卷一

亞美理駕鱷

第十圖



Alligator



Ganges Crocodile

恒河鱷

第十圖

第三級鑲甲類論

鑲甲類ハ鱷魚圖第八 亞美理駕鱷圖第十 及ヒ恒河鱷
 一第十圖等ヲ統收ス、性格淡水鱷ト蟾蛇トノ間ニ居
 リ、兩種ニ關涉セリ、體甲板ヲ以テ鑲ス、堅剛緻密
 ニシテ、大ニ抵抗力ヲ有セリ、足平扁ニシテ淡水
 鱷ノ如ク、前ニ五趾、後ニ四趾、趾間ニ駢幕ヲ具フ、
 蟾蛇ノ如キハ之ナシ、此ヲ以テ他級ト區劃ス、前
 趾ニ三爪アリ、口銳齒ヲ列植ス、上顎斷口アリテ、
 恰モ下顎ノ大牙ニ銜合ス、舌肥テ扁ナリ、嘴端鼻
 孔アリテ彎形ヲナシ、小扉アリテ鎖房ス、眼臉三

車勿所編 卷一 長 鑲甲類論

重、隨意ニ啓閉スヘシ現ニ繁殖スル所ノ肥行族、
鰐類ヲ以テ最大トナス、大ナル者ハ三十尺ノ長
アリ、體圍七尺ヨリ八尺ニ至ル、象犀河馬ト比肩
スヘシ、肥行疾速ニシテ善ク水ニ游泳ス、其游泳
ヲ作スヤ、足之ヲ撐擺シ、尾力之ヲ輔ク、尾ノ擺動
ヲナス、強大ナル鰐ノ如シ、凡ソ熱候ノ江河及ヒ
淡水ニ居ル、頸短厚ニシテ回顧甚々難シ、擧止趨
疾喜ンテ人ヲ食フ、儻シ人頸ノ短厚ナルヲ知テ
急ニ躲閃シテ之ヲ避レハ、容易ニ危害ヲ免ルヘ
シ、尾意ニ隨テ掉撥スルヲ得、以テ四面ヲ打ツ、且

此ヲ以テ全體ヲ平準ス、實ニ體中緊要ナルノ具
ナリ、尾ノ中心亦鑲甲アリ、屹然駢立シ、峯嶽ヲ列
スルカ如シ、以テ抗敵スル所ノ諸獸ヲ觸擊ス、其
生物ヲ獲ル先ツ水ニ入レテ淹死セシメ、而シテ
之ヲ岸畔窟穴ノ處ニ遷シ、其爛腐スルヲ俟テ然
シテ後ニ之ヲ食フ、蓋シ彼ノ鼻孔及ヒ氣管ノ環
置、水ニ呼吸スルヲ得ルト雖トモ、水ニ喫食スル
ニ適セサルナリ、鰐魚ハ尼羅河及ヒ亞非利加ノ
諸河ニ産シ、恒鰐ハ印度ノ恒河其他亞細亞ノ諸
河ニ産シ、亞鰐ハ亞美理駕洲ニ産シ、他洲ハ曾テ

鱈魚

之ヲ見ス、三種狀貌幾シト相類ス、只頭ヨリ以上ノ形殊ナルヲ以テ判別ス、恒鱈ハ嘴長クシテ窄シ、狀匙嘴鳥ノ嘴ノ如シ、鱈魚ハ兩眼ニ近ツクニ隨テ漸ク寬濶ナリ、亞鱈ハ鼻體極メテ圓ナリ、頭長ニ較シテ濶ク、脚ニ駢跖ナシ、上ノ二種ニ比スレハ、水性較少シトス、鱈魚ノ蛋ハ鷲卵ニ似テ大ナラス、每歲四月ニ一産ス、常ニ登ヲ砂中ニ留メテ去ル、或ハ罕ニ之ヲ泥解スルアリ、蛋數二十若クハ二十五、其孚哇カハスル迄寒ノ候ニアラサレハ、約ソ四十日ニシテ化ス、殼ヲ出ル長五六寸ニ過

ルナシ、昔時埃及人大ニ鱈魚ヲ尊重シ、鱈死スルアレハ其水ヲ腐敗スルヲ恐レ、之ヲ他處ニ遷シ、為メニ盜竊ヲ防ク、生クレハ則チ宮殿ニ處キ、死スレハ則チ灌尸トナシ、以テ人ノ集觀ニ供シ、頗ル贏利ヲ獲タリ、爾後鱈種大ニ殖シ、往々人ニ逼ル、是時ニ當リ、人民之ヲ殲滅セシト欲シ、荐シキリニ干戈ヲ尋モテク、故ニ其種隨テ亡ビ、今ニ至テ蕃息セズ、河口ニ於テ罕ニ之ヲ觀ルノミ、其堤草中ニ伏スル、棕色ニシテ錯節アリ、狀枯木ノ如シ、又水ニ游泳シ、諸獸ノ河ニ飲スルアレハ輒チ噬ム、其之

恒河鱷

ヲ捉ルヤ、率不先ッ尾ヲ以テ觸擊シ、然レテ後之ヲ噬ム、或ハ時トシテ突起シ、噉ヲ以テ咬著ス、喜ンテ人ヲ食フ、寂モ黒奴ヲ嗜ム、是ヲ以テ黒人屢々命ヲ喪フ者アリ、又犬ヲ食フ、土人犬ヲ使フテ鱷ヲ獵ス、常ニ犬ヲ携テ河邊ニ至リ、之ヲ撻ウツ、犬頻リニ號ヒ吠ユ、鱷聞テ怒リ出ツ、獵人隨テ之ヲ斃ス、恒河ハ恒河ニ産スルヲ以テ名ツク、鱷魚ニ比スレハ特ニ水性アリ、一名 *Shanool* 常ニ淺水ノ泥中ニ潜ミ、魚及ヒ水生ノ爬行族其他水中ニ生スレ所ノ物ヲ食フ、又時トシテ熱血ノ動物

亞美理駕鱷

ヲ襲フ、然レトモ人ニ近ツカス、或屍アレハ之ヲ食フ、印度ノ俗佛ヲ信ス、僧人其國人ヲ愚ニシ恒河ヲ稱シテ聖江トナス、謠言ス、人能ク子女ヲ江ニ投レ鱷ニ食ハルレハ、則チ佛必ス福ヲ錫フ、涯ナレト、該地ノ人甘シテ子女ヲ委^スシテ鱷腹ニ斃カレム、陋モ亦極レリ、佛國巴理府ニ一箇ノ碎骨ヲ藏セリ、其全身ヲ推測スルニ、概ネ三十尺餘アルヘントス、亞鱷ハ多ク陸地ニ居ル、常ニ林谷幽邃ノ處ニ伏シ、生物ノ来ルアレハ倏起シテ之ヲ襲ヒ、水中ニ移搬シテ之ヲ食フ、又或ハ人ヲ襲ス、

博物新編

卷第一

魚類

聲巨鐘ノ如シ、其大ナル者ハ、陸地ニ在テ勇猛鱈
 魚ノ上ニ出ツ、嘗テ蘇利南スリナム南亞美理駕荷蘭亞阿
 那領内ノ河名ナリ、
 近傍ノ河ニ於テ、長サ二十四尺ナル者ヲ獲タリ、
 土人此肉ヲ食フ、臭麝香ノ如シ、福落里達フロリダノ河邊
 ニ野犬アリ、將ニ水ニ飲セントスル、先ツ河ニ臨
 テ大ニ吠エ亞鱈ヲ誘フ、鱈水中ニ在リ將ニ出
 テ噬ントス、犬急ニ身ヲ回ラジテ奔竄シ、遙カニ
 相距ル處ニ抵リ、鱈ノ追趕ノ間ヲ偷ニ潜カニ水
 フ飲ニテ去ル、智ノ術タル、欺クニ其方ヲ以テシ、
 能ク弱ヲ以テ強ヲ制ス、奇ト謂フヘシ、

アガマ

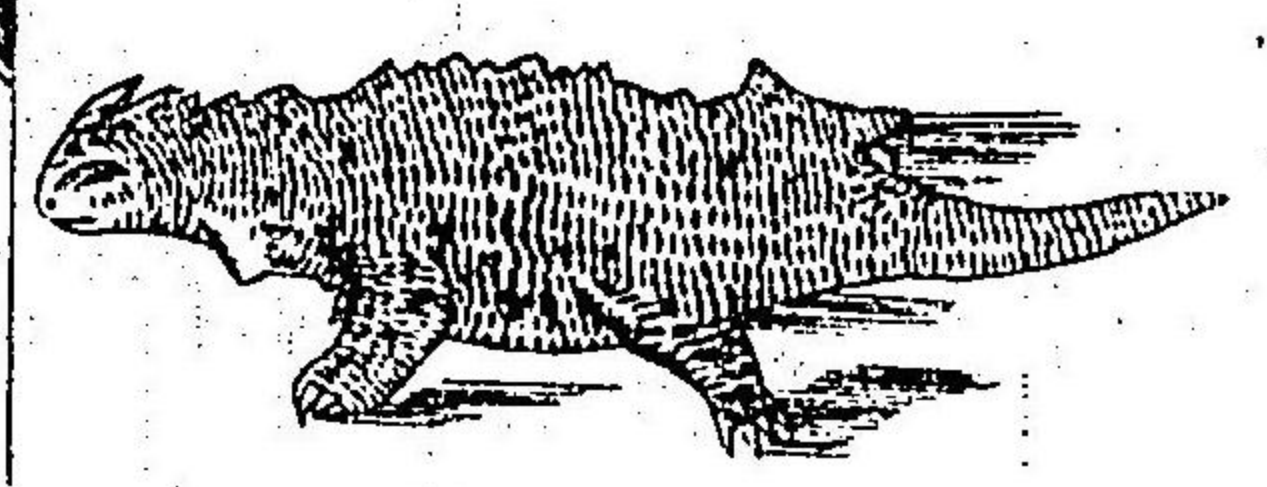
第十二圖



Agama

惡王蟾蛇

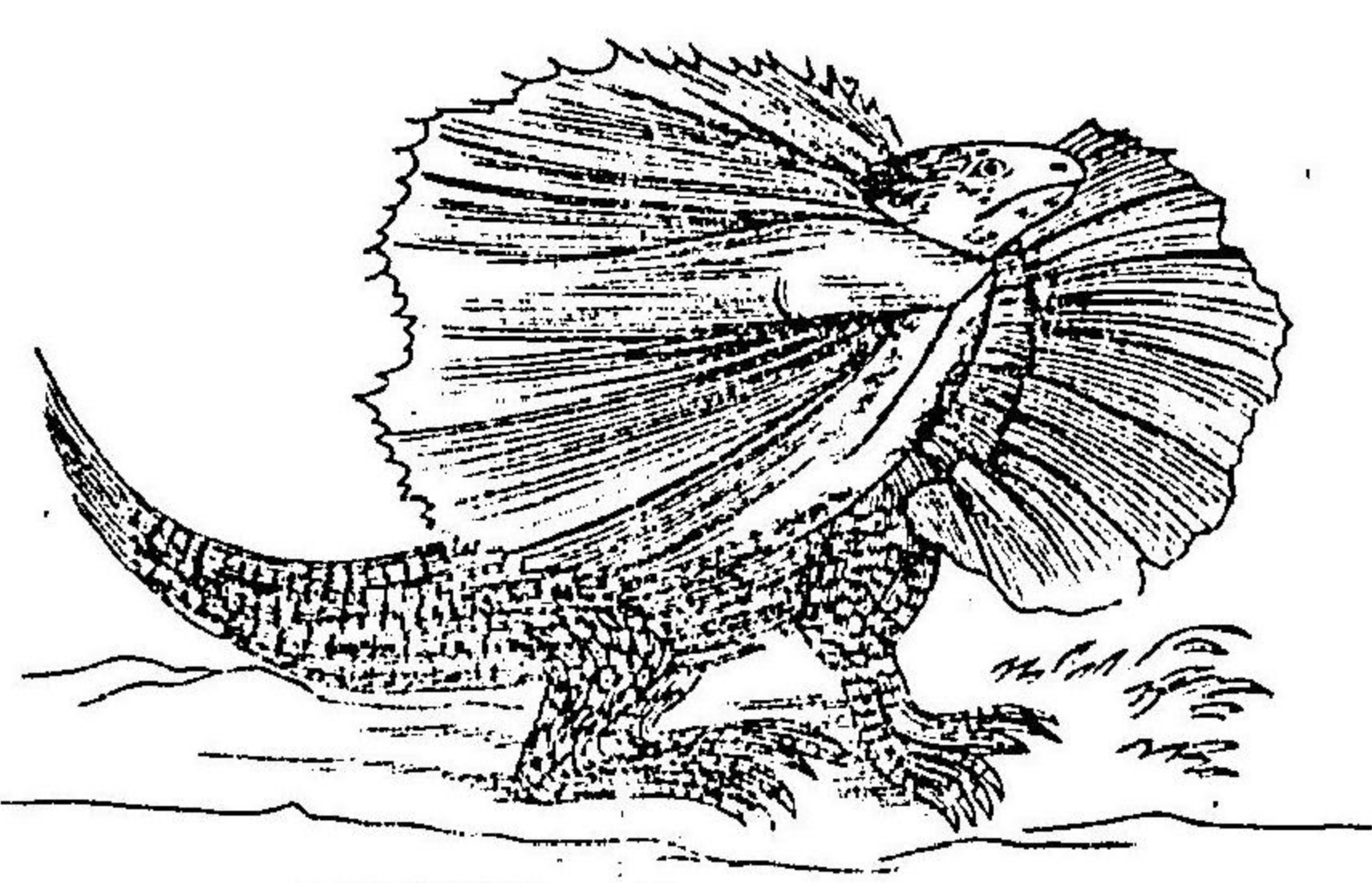
第十四圖



Holoek Lizard

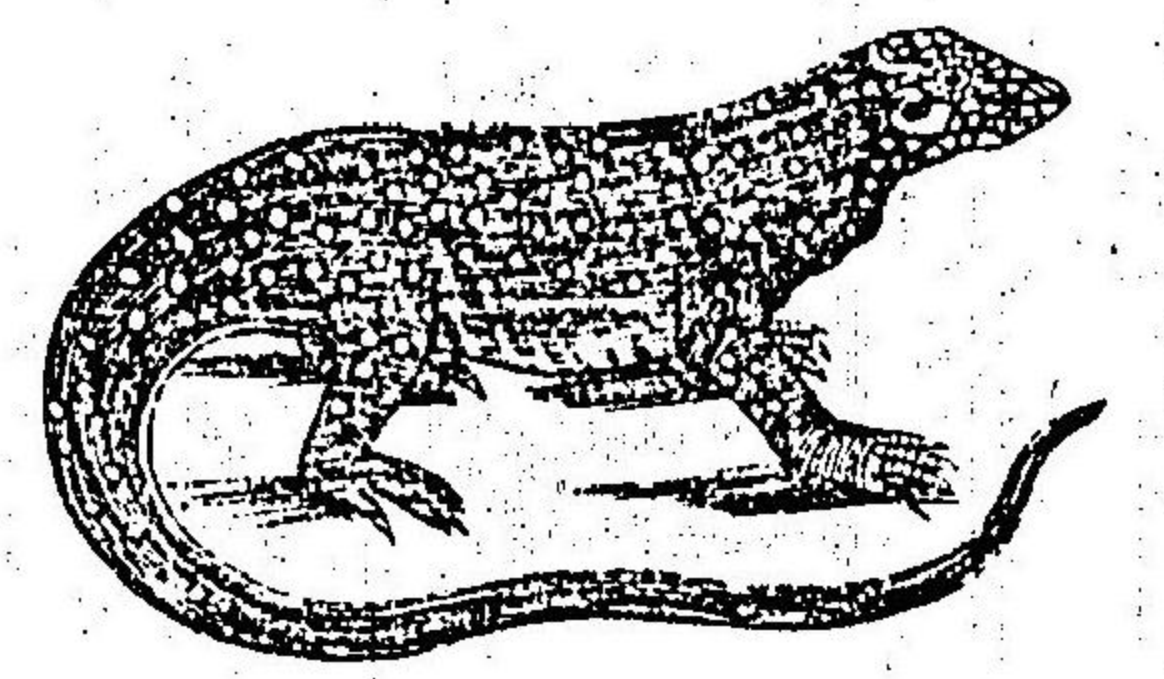
領帶アガマ

第十三圖



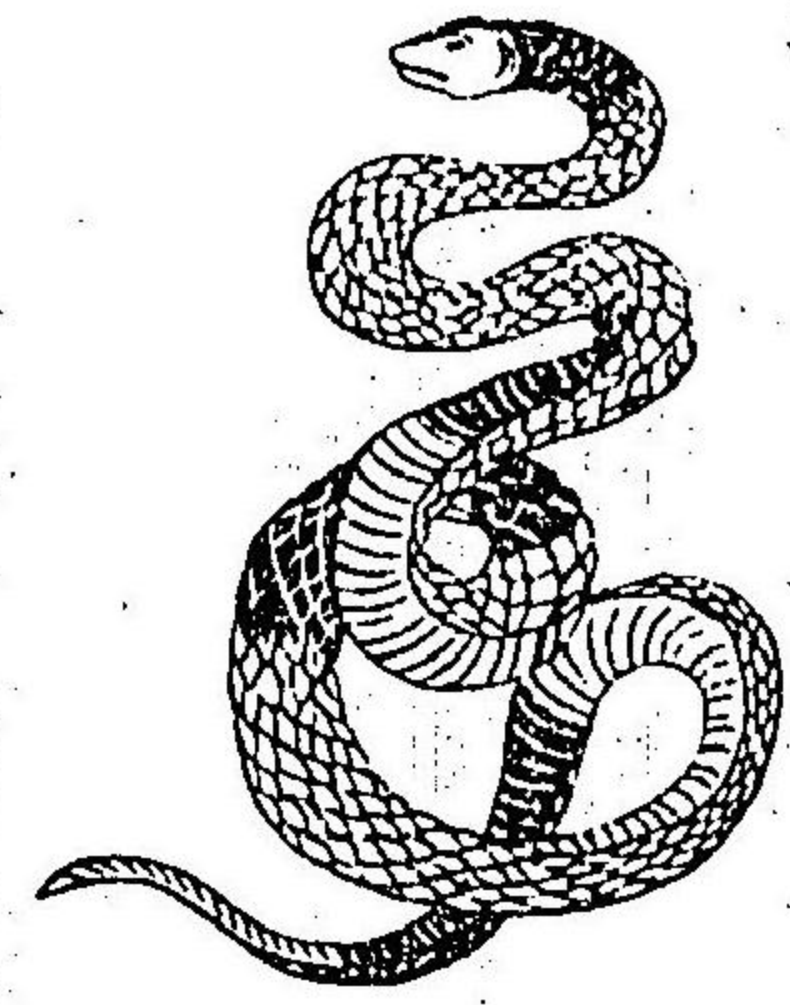
Frilled Agama

斑蟊蛇 第五圖



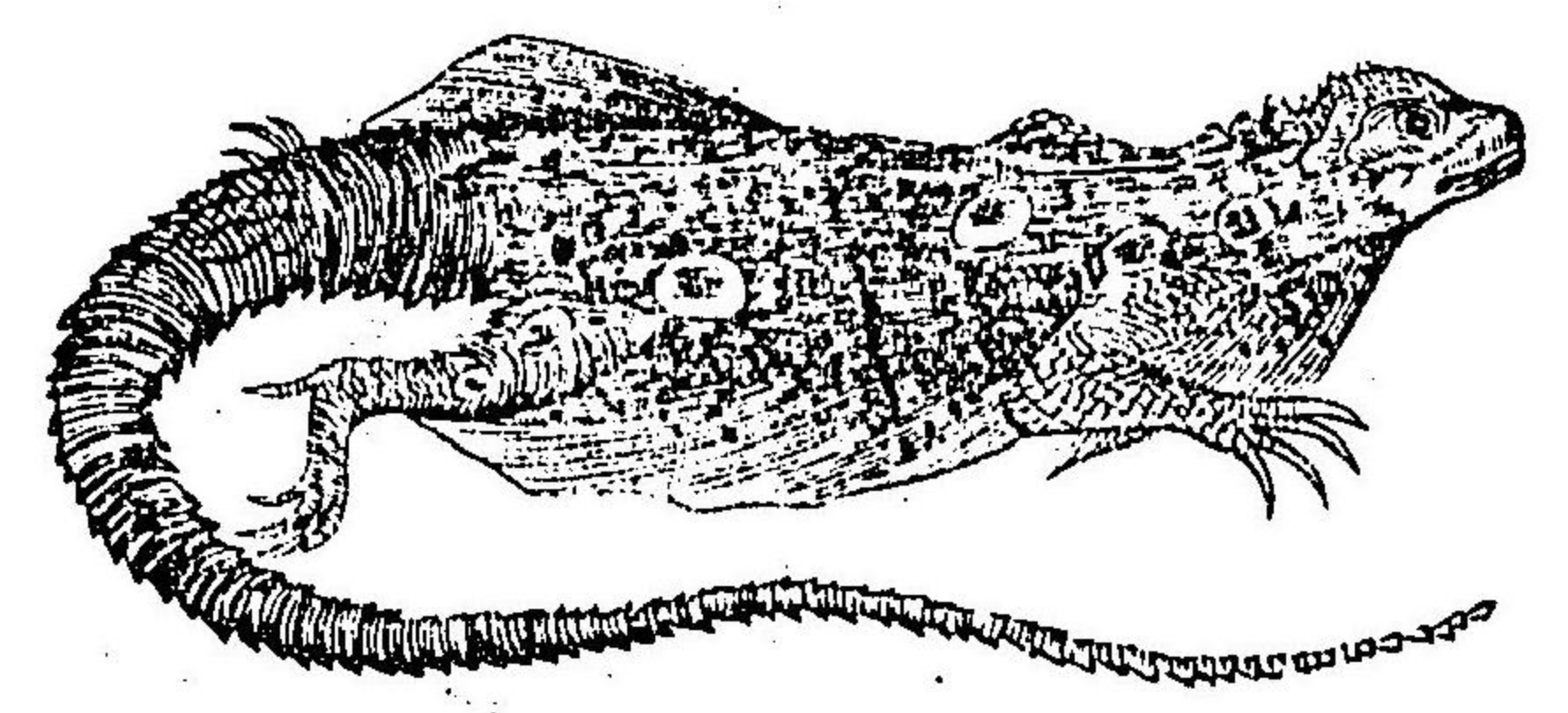
Variegata Lizard

標鎗蛇 第六十圖



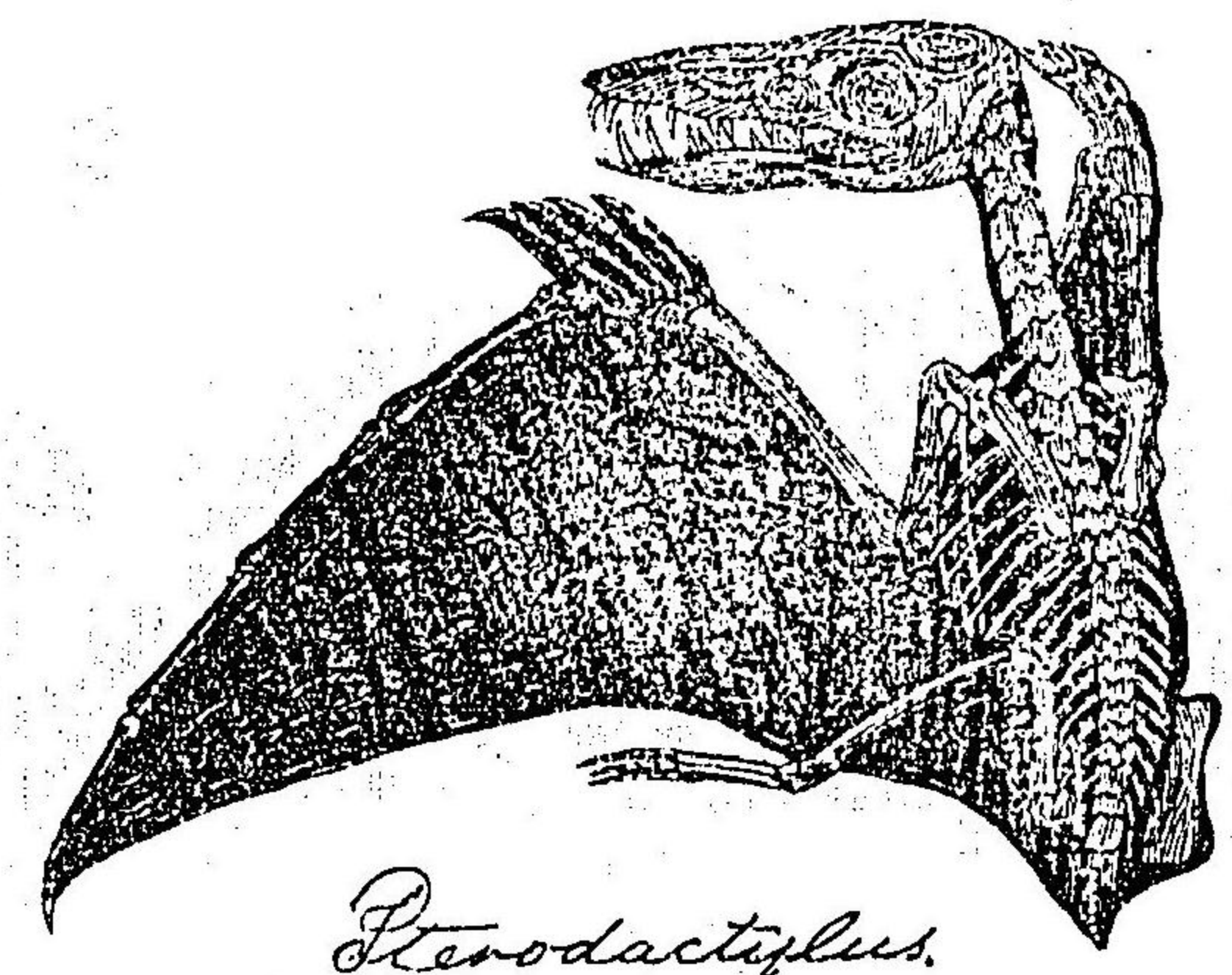
Scantias

龍 第七十圖



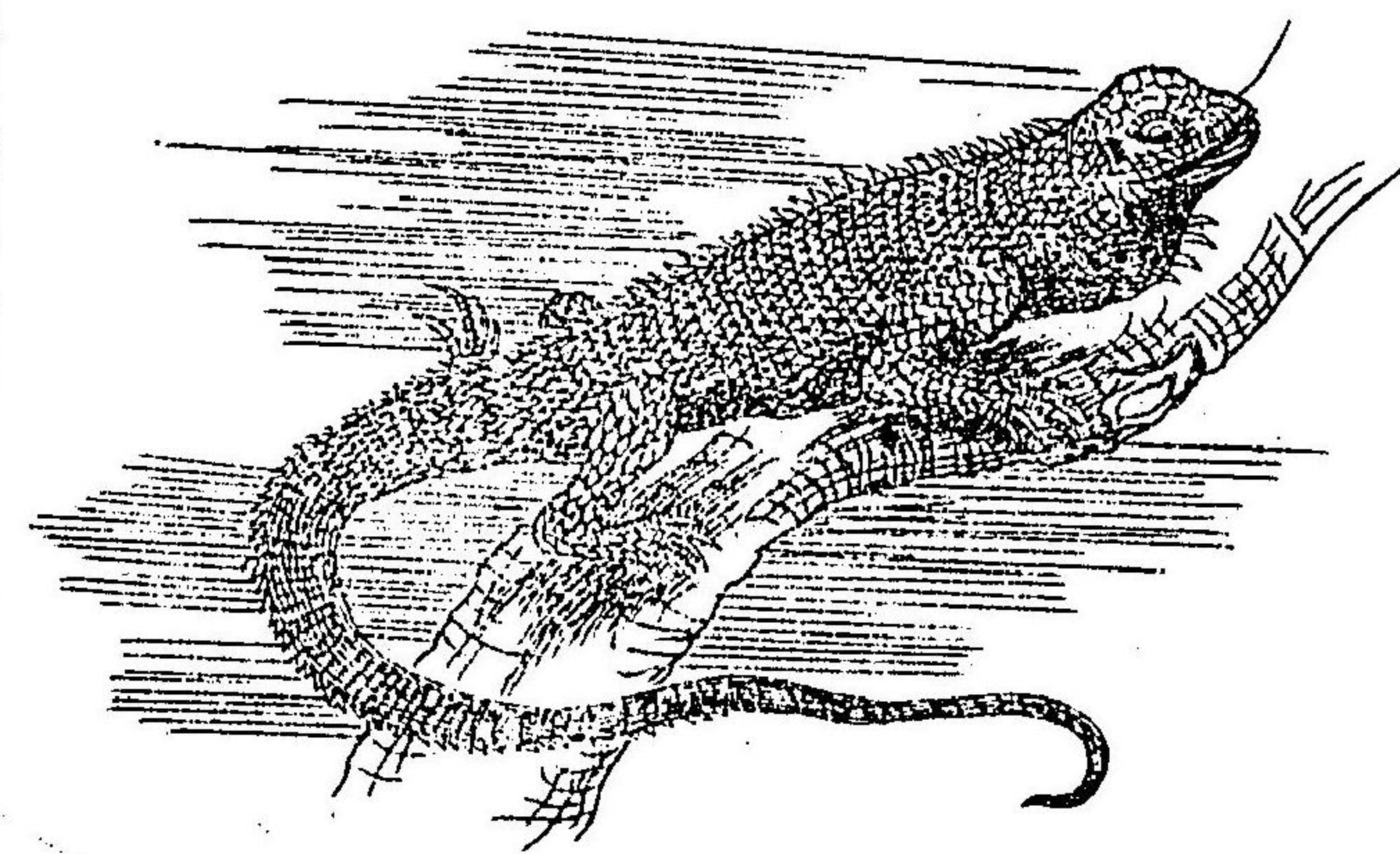
Dragon

鴻蝠 第十八圖



Pterodactylus

大蟾蛇 第十九圖



Iguana

博物新編
第一卷

アノリユース

第十圖



Anolis

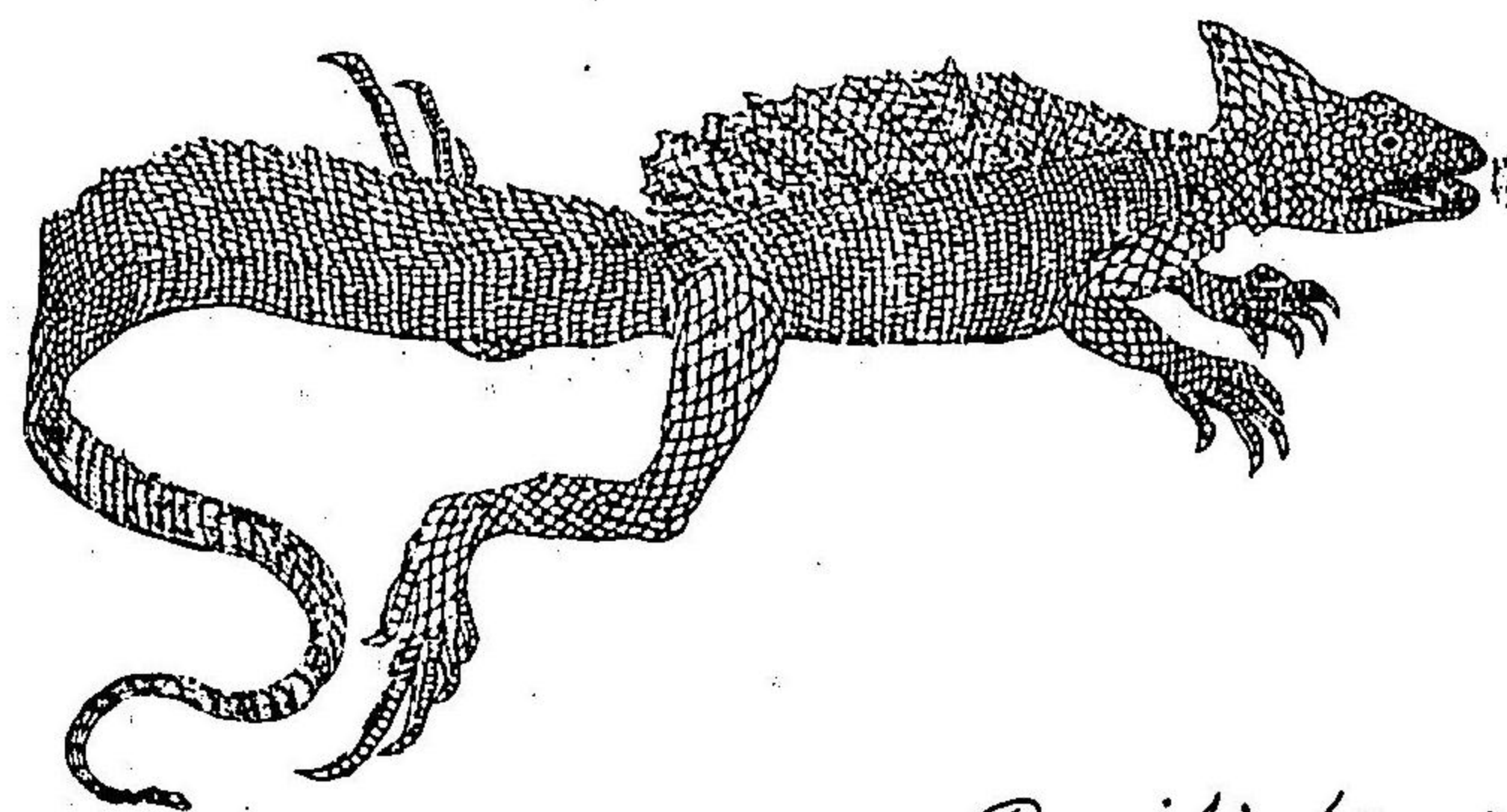
雷公蛇

第廿二圖



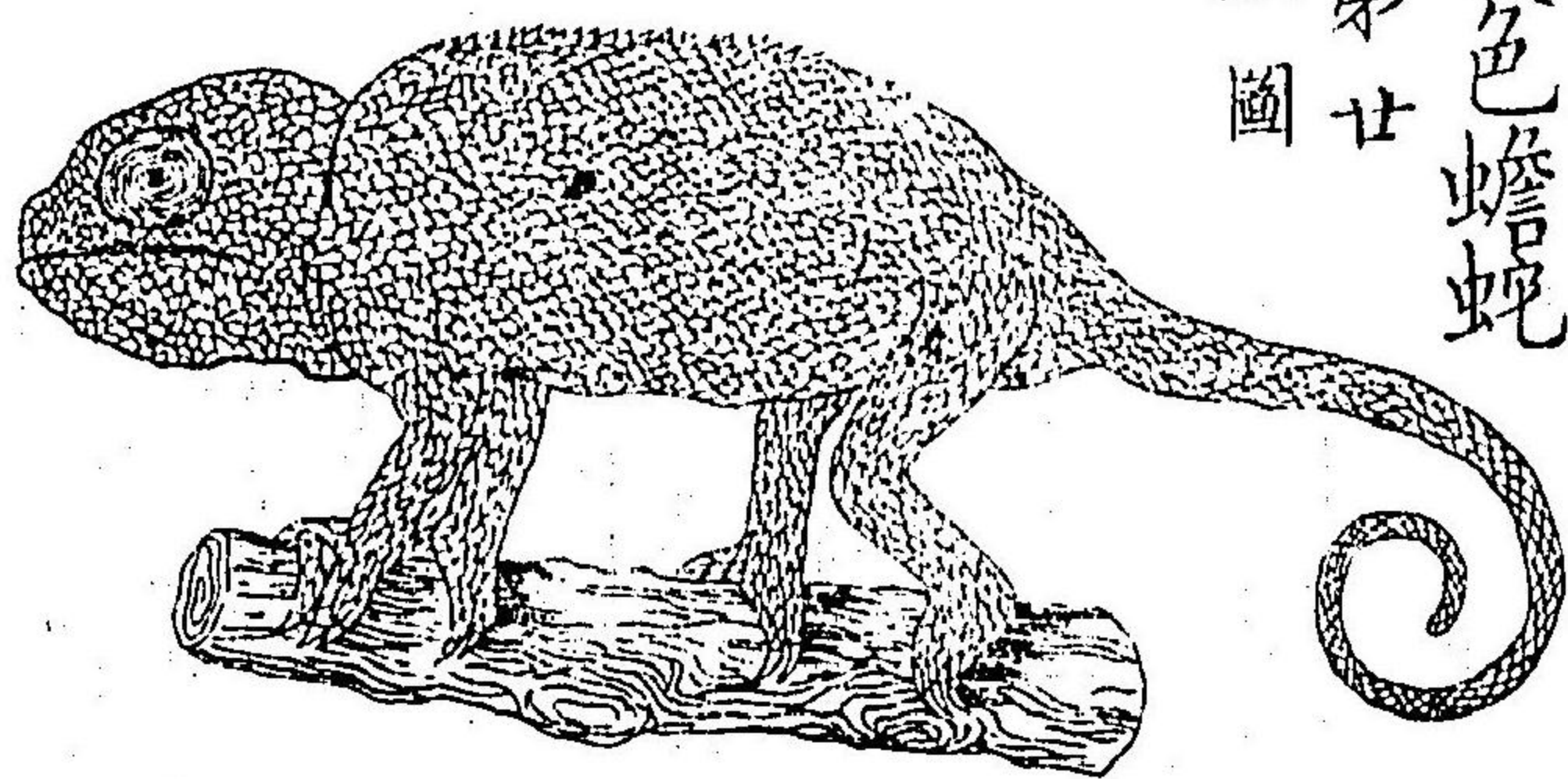
Gecko

毒蛇第廿一圖



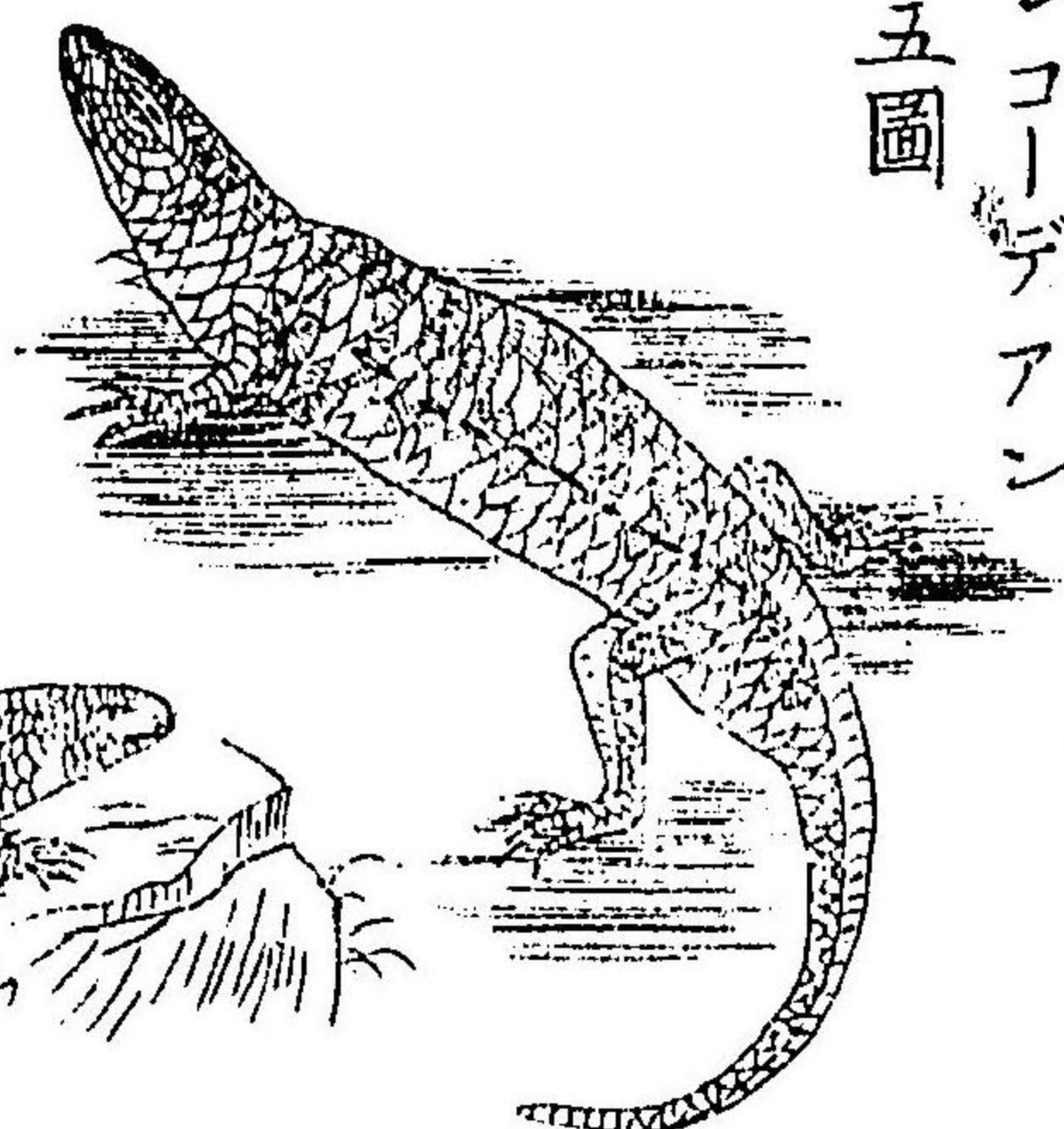
Basilisk

變色蟾蜍
第廿三圖



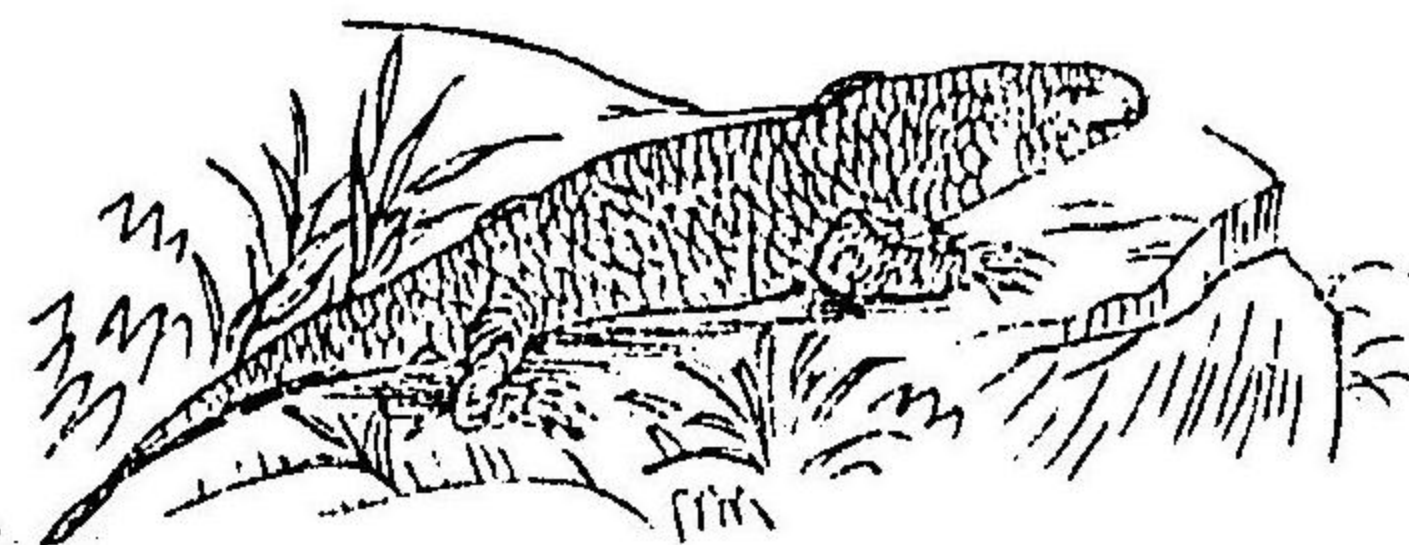
Chameleon

スレンコーデマン
第廿五圖



Scincoidian

スキング
第廿四圖



Skink

博物新編

第一卷

二九

第四級脚蛇類論

蟾蛇守宮等ノ屬是ヲ脚蛇類ト曰フ、體圓長ニシテ尾殊ニ長ク、或ハ體ニ四倍スル者アリ、身ニ堅甲ナレ、鑲甲類ト同ジカラズ、細鱗アリ蛇類ノ如シ、故ニ鑲甲ト蛇トノ二類ノ間ニ列ス、四脚中只一雙ヲ見ル、或ハ四脚共ニ皮底ニ藏レ、狀蛇ノ如キ者アリ、繩^ヒ^ビ^シ^トノ種アリ、美麗ノ種アリ、爬行族此級ヲ以テ最美トナス、但其栖居スル所ノ地ニ隨テ、互ニ色彩ヲ異ニス、故ニ樹蟾蛇 (*Tree lizard*)、樹ニ栖ム、透明ニシテ綠色多シ、地蟾蛇 (*Ground S.*)

樹蟾蛇

地蟾蛇

ハ土ニ處ル、棕色ニシテ黒斑點アリ、而シテ巖石ノ間ニ居ル者ハ淡墨色ナルカ如ク、皆一樣ナラス、率ニ肉食ナリ、常ニ柔懦ノ生物ヲ害ス、昆蟲ヲ食ヒ、或ハ潜伏シテ小鳥ヲ搏ツ、大蟾蛇ノ如キハ蔬菜ヲ食フ、地ヲ行ク疾速ナル者アリ、善ク城壁ニ登ル者アリ、世守宮ト稱スル是ナリ、又繞カニ水中ニ入ル者アリ、然レトモ之ヲ陸動物トナス、蟾蛇ノ昆蟲ヲ擊ツヤ、注視シテ之ヲ捉ル、猫ノ鼠ヲ捕ルカ如ク疾キヲ掣電ニ似タリ、脚短クシテ體ニ稱ハス、其運動ヲナス足ヲ以テス、其大ナル

博物新編

第一卷

脚蛇類論

三

屬ハ肉翅ヲ以テ飛ヒ、小ナル屬ハ骨骨ノ^筋効ニ
 賴テ^ク疾行ス、脚蛇類別ツテ五屬トナス、第一蟾蛇
 屬、*Phascogaster*、小頭薄頸舌長クシテ細シ、通常ノ蟾
 蛇ヲ收括ス、脚蛇中^ハ慣性ノ最モ勤勉ナル者ナリ、
 第二大蟾蛇屬、*Agamidae*、蟾蛇ト同狀舌短クシテ
 密ナリ、最大ノ種トス、第三雷公蛇屬、*Phascogaster*、夜
 動物ナリ、形狀前類ノ如ク輕薄ナラス、頭最モ平
 匾、短脚ニシテ行ク^ハ遲^クナリ、色米暗黒、謂テ毒アリ
 リトナス、^ク確言ニアラス、第四變色蟾蛇屬、*Volcanus*
leucite、舌甚ク長クシテ銳ナラス、足趾相反向シ

テ、尾圓長ナリ、並ニ樹枝ニ^テ攀援スルニ利シ行ク
 極メテ^ニ緩慢、其舌ヲ掉ヒ昆蟲ヲ^テ捕食スルニ當リ
 方ニ能ク疾行ス、第五^ニ*Scincoides*屬一名ハ^ハ蠅蛇
Chryseus、短足窄舌體細鱗アリ、葦瓦ノ屋ノ
 如シ

第一蟾蛇屬ハ脚蛇ノ最モ敏ニ最モ美ニ最モ毒
 害ヲナサ、ル者ニシテ多ク世人ニ嫌忌セラレ
 ント雖トモ曾テ人ヲ^テ螫傷セス、足四趾或ハ五趾
 等シカラス、鉤爪アリ、頭方形ニシテ平扁、角^ノ縁ヲ
 佈點ス、眼胞^ハ脹出シテ三層ヲ成ス、口廣闊舌長ク

博物新編 卷之三 蛇類

警蟾蛇

シテ整平狀肉又ノ如レ、大ナル者ハ地ニ居リ、常ニ掛孔岩石ノ裡ニ匿ル、或ハ澤中ニ徘徊スル者アリ、或ハ樹上ニ攀縁スル者アリ、又沙中ニ居ル者アリ、色鮮明ニシテ行ク疾速飛鳥ニ仿類セリ、同類相親マス、雌雄并ヒ栖ム一産五七蛋、大氣ノ温暖ヲ借テ孵化ス、頗ル長生ナリ、此屬ヲ今テニトナス、一ヲ警蟾蛇 (Kouider) ト曰フ、上顎齒牙備ラス、一ヲ *Scaphiopus* ト曰フ、二列ノ齒アリテ上顎ノ後面ニ整齧入、警蟾蛇ハ其群生ノ地ニ於テ、鰐魚及ヒ他ノ爬行族ノ已ヲ害スル者アリテ来レ

ハ、嘯テ以テ警報ス、故ニ名トナス其埃及ニ居ル者ハ、能ク鰐魚ノ卵ヲ剖リ、鰐魚ノ兜ヲ啖ヒ其ヲシテ蕃殖セサラシム昔時埃及人取モ尼羅河ヲ崇ム、今其遺碑ヲ存セリ、國府該祿ノ使法使、此種ヲ捕ハ齒牙ヲ除去リ、以テ撮瀝ノ技ニ供ス、又ニ至規ノ地方ニ數屬アリ、屢々水中ヲ行ク、南亞美埋駕 *Phrynosoma* ト稱スル者此ニ屬ス、地ヲ行ク敏速ナリ、土ニ隱伏ス、窮スレハ則チ水ニ潜匿ス、長六尺肉頗ル美トス尾堅扁ナリ、以テ其水性アルヲ徵驗ス、一種アリ *Chamaeleon* ニ屬ス *Amelior*

博物新編

卷一

三

ラセルク

八、圓尾ニシテ狀最ノ通常ノ蜃蛸ニ近シ、亞美理
 駕ニ産ス、他洲ハ則チ無シ *Solenaster* ハ大半熱國
 ニ産ス、其温地ニ産スル者ハ、冬天ヲ經過スル其
 勢力ナシ、漸ク熱スルニ及テ、纒カニ熱クテ得、
 腹恒ニ饑エス、尾圓ニシテ鬣鬚ナシ、是ヲ水性ナ
 キノ驗トナス、最モ脆弱ニシテ摧ケ易シ、然レド
 モ頃刻ニシテ故體ニ復ス、性毒害ヲ為サスト雖
 トモ、之ヲ打擊スレハ大ニ怒テ自ラ防ク、漸ク窮
 スレハ人ヲ咬ム、頗ル烈シ慎マサルヘカラス、食
 フ所概チ昆蟲ナリ、而シテ鼯鼠蝦蟇ヲ食フ者ア

沙蟾蛇

鱗蟾蛇

リ、英倫ニ二小屬アリ、一ヲ沙蟾蛇 (*Sand lizard*) トナ
 ス、美小ノ動物ナリ、棕緑時ニ隨テ變色ス、沙地灌
 木ノ間ニ生シ、時ニ綠隄ニ出テ身ヲ太陽ニ曝ス、
 一ヲ鱗蟾蛇 (*Scaly lizard*) トナス、又名ハ胎生蟾蛇 (*St.
 vivipara*) 常種ナリ、英倫ノ州郡頗ル衆シ、延殖シテ
 蘇格蘭ニ及フ、愛爾蘭ノ地ハ漸ク罕ナリ、春夏温
 暖ノ候ニ遇ヘハ、毎ニ灌叢破隄ヲ遍行シ、小蟲ヲ
 覓メ食フ、燥地ニ在テハ胎生ス、蓋シ卵體中ニ在
 テ化生スル蝮蛇ノ如キナリ、卑濕ノ地ハ則チ卵
 生ス、又美色ナル綠蟾蛇アリ、長十寸若クハ十五

博物新編

第一卷

三

アガマ

寸、棕色或ハ黄色ノ斑文アリ、昆蟲ヲ食フ、體摧折
 セラルレハ、毎ニ新尾ヲ生ス、歐洲及ヒ亞細亞中
 部暖熱ノ地方ニ見ユ、*Agama*ニ第十ナル者ハ、頭
 短濶ニシテ整平、百體緊接シ、鬆皮之ヲ被フ、皮空
 氣ニ隨テ膨脹ス、蔬菜ヲ食フ、又善ク樹ニ登リ枝
 ヲ扳チ、昆蟲ヲ食フノ種アリ、一種首飾アリテ領
 ヲ圍ミ肩ニ被ル、名ケテ領帶 *Spangle*ニ第十ト曰
 フ、危ケレハ則チ之ヲ躡起ス、豪斯太利ニ界限ス、
 惡王蟾蛇第十ナル者アリ、此種ニ屬ス、兇猛ノ種
 トス、頭上ニ角アリ、全體刺ヲ生ス、狀寂モ畏ルヘ

領帶アガマ

惡王蟾蛇

斑蟾蛇

標鎗蛇

モザール

シ、亦豪斯太利ニ産ス、斑蟾蛇第十ト曰アリ、蟾蛇
 屬ノ一種トス、全體斑點アリ、紫爛トシテ觀ルヘ
 シ、又標鎗蛇第六ト名クル者アリ、傳ヘ言フ此蛇
 樹枝ニ纏身シ、人ノ過ルアレハ剝前シテ叢ヒ擊
 ヲ、勢鎗ヲ標ツカ如ク、故ニ是名アリト、然レトモ
 性毒害ヲナサス、體褐色ニシテ黄點アリ、寂モ綺
 麗トス、南亞美理駕ニ界限セリ、嘗テ某ノ鳩大ナ
 ル化石ノ體骨ヲ發見セシアリ、蓋シ量ルヘカラ
 サルノ一大脚蛇ニシテ、其骨駭蟾蛇ニ符合セリ、
 喚テ *Mohammadia*ト名ツク、警蟾蛇ト大蟾蛇トノ間

博物新編 卷一
 三

ジサールス

ニ居ル、頭ノ長ヲ以テ全體ヲ推測スルニ、縦ヒ小ナルモ七十尺ニ及フヘシ、*Psittacus*ト曰ワアリ、鰐魚ト警蟾蛇トノ間ニ位ス、是亦一ノ大化石ナリ、

龍

茅二大蟾蛇屬ハ、其性質蟾蛇ニ類似シテ、形狀ハ特異ナリ、大蟾蛇ノ本種ハ、獨リ亞美理駕ニ限レリ、他ノ種屬ハ二至規ノ地方寂モ多シ、分ツテ二屬トナス、上腭ニ齒牙アルト齒牙ナキトヲ以テ區別ス、茅一屬ハ幾ント蟾蛇ニ似テ他ノ解説ナシ、之ニ次ク者形狀傑偉ニシテ昔在傳ヘテ龍茅

トナスモノアリ、然レトモ真ニ龍タルニアラ

ス是ヲ龍種ト為スノミ、此屬體側ニ附翼アリ、一

觀シテ他ノ脚蛇類ト判別スヘシ、其翼皮ノ擴張

セルニ因テ成リ骨骨ノ大ニ展恢スルアリテ、以

テ之ヲ支撐シ、或ハ張開シ、或ハ疊歛ス、然レトモ

此ヲ以テ大氣ニ搏ツ能ハス、鳥蝠ノ如ク高擧ス

ル能ハス、故ニ之ヲ輕氣球ノ巨傘ニ比ス小ナル

數寸ノ者ト雖トモ能ク翼ヲ以テ枝ヲ遮ヒ樹ヲ

過キ、昆蟲ヲ驅リ食フ、捷キト鷗鼠ノ若シ、亞細亞

亞非利加ニ至規地方ノ樹林ニ見ユ印度ノ群島

博物子編 第一卷 三五

取モ夥多ナリ、夫世ノ妖精怪物アルヲ信スル古
ヨリレテ然リ、支那人龍ヲ謂テ神物トナシ、用テ
人ニ譬稱スル、猶英人ノ獅子ヲ喻用スルカ如シ、
東方諸國ノ古史往々龍登天ノ事ヲ説クニ曰ク、
雷雨大ニ至リ、風號ヒ霆撃チ、樹ヲ拔キ瓦ヲ飛ス
ト又惡龍崇ヲ作スノ事ヲ載ス、並ニ變幻詭異色
相スヘカラス、往古鮪魚ノ如キモノヲ執ヘテ、附
スルニ數箇ノ頭ヲ以テシ、稱シテ怪物ト為シ、人
民ヲ哄惑ス故ニ龍ノ如キモ、諸家互ニ奇説ヲ傳
ヘ強メテ其事ヲ夸炫セリ、然レトモ今ヲ以テ之

飛龍

鴻蝠

ヲ考ルニ、實ニ所謂龍ナル者アルナシ、即チ之
ラレムルモ、一ノ脚蛇類ニシテ溫柔且美麗毒害
ヲナサル者ニ過キサルノミ、適々一種ノ罕ニ
毒害ヲ為ス者アリ、歪亞那ニ居ル飛龍 *Hydringdra*
gnis ト名ツク、脊尾ニ鬣刺アリ、舌肉又ノ如シ、肉
卵共ニ食フヘシ、長或ハ六尺ニ及ブ、又一ノ化石
物ノ非常ナルアリ、オホカホリ 鴻蝠^{トミ} 第十ト名ツク、狀甚タ雄
偉ナリ、形質正ニ一ノ蟾蛇類トナス、其翼大氣ニ
飛翔スルニ足ル、鳥ト蝙蝠トノ如クナルヘシ、但
雙翼ノ膜肢骨ノ全部上ニ撒開セス、一指ノ長ク

狀弱骨ノ如キアリテ翼膜ヲ支堰ス、蓋シ先世ノ
生物ニシテ、今其種ヲ絶ツ者ナリ、倘シ地球上ヲ
シテ再タヒ此ノ如キノ物ヲ生セシメハ現ニ蕃
殖スル所ノ諸動物ニ異ナリテ、最モ奇怪ノモノ
ヲ見シ、頭形及ヒ頸ノ長キ一鳥ニ彷彿シ而シテ
蟾蛇ノ骨齒アリ片翼ノ長サ約ソ十尺、蝙蝠ノ翅
ノ如シ、體尾胎生獸ニ似タリ、外部ノ造構大約ソ
碎血蝠ニ類ス然レトモ此種中鼻鱈魚ニ似テ濶
ク、齒圓錐狀ヲ成ス者アリ巨眼ニシテ暗キニ視
ル、以テ夜翔ニ便ス、翼ニ數指アリ、鈎狀ヲナス、寂

モ勢力アル節膜トス、能ク樹上ニ爬攀シ或ハ鈎
ヲ以テ體ヲ樹梢ニ懸ケ憩息ヲナス、紅沙石層ニ
發見セリ、其食フ所ヲ察スルニ、蓋シ昆蟲ナリ、何
ヲ以テ之ヲ知ル、其石層ニ創現スルノ時、共ニ昆
蟲ノ化石體アルヲ見ルヲ以テナリ、或ハ謂フ龍
ト鴻蝠ト並ニ頭齒大ニシテ、昆蟲ヲ食フニ造セ
ス、且此種世ニ居ルノ時、小動物ノ陸地ニ散見ス
ル甚タ稀ナリトス、根フニマサニ海魚ヲ食スル
海鳥ノ空ヨリ飛下シテ、魚ヲ啄ムカ如クナルヘ
シ、是ニ由テ之ヲ見レハ、鴻蝠ナル者ハ、禽族ト爬

大蟾蛇

行族トノ兩種ニ介スト雖トモ肥行族ヲ距ル頗
 ル遠シ今世究理家ノ説皮膚ニ羽尾アリテ鳥類
 ノ極メテ驚悍ナル者トス若シ謂フ所ノ如ク十
 レハ之ヲ肥行族ニ列スル未タ疑ナキ能ハサル
 ナリ第二屬ハ即チ大蟾蛇ノ本種ナリ大蟾蛇第十
 九ハ南亞美理駕及ヒ西印度諸島最モ多シ大抵
 樹ニ棲ム又能ク水ニ游泳ス頗ル重量ノ大ニ及
 へリ脊尾ニ鬣アリ頷下ニ一ノ袋皮ヲ掛ル牀牛
 頷ノ垂肉ノ如シ時ニ或ハ膨脹スルアレトモ未
 タ其狀況ヲ詳カニセス久シクシテ皮膚ノ文采ヲ

變換シ其著シキ者ハ變色蟾蛇ノ如キアリ擧止
 快捷脚體ニ較シテ長ク脩短等シカラス食フ所
 多クハ蔬菜ナリ或ハ肉食スル者アリ五尺若ク
 ハ六尺ニ長スル種アリ尾此ニ準ス肉食フヘシ
 味雜離ノ如シ其多ク産スルノ國ニ在テハ毎ニ
 之ヲ獲テ以テ珍饈トナス性極メテ頑ナリ若シ
 楚捷セラルレハ則チ口ヲ張り舌ヲ顫シ咽喉ヲ
 多ク開シ鬣鬣ヲ振聳シ目光炯々大ニ光輝ヲ發ス
 然レトモ是皆特ニ身ヲ衛ルカ為メニシテ衝撃
 フ為ント欲スルニ非サルナリ其小動物ト格闘

博物新編 卷一 蟾蛇

スルヲ見ル未タ其大ナル者ニ抗敵スルヲ見ス

アリウス

Amphisbaena 第十圖ナル者亦此種ニ屬ス、亞美理駕ニ

産ス、頷下ニ鞭袋アリ、色采喜怒ニ隨テ變ス、體格

變色蟾蛇ニ比スレハ適便ニシテ、動作亦均如ナ

リ、性温和ニシテ害ヲナサス、七八寸ヨリ一尺ニ

生長ス、蠅及ヒ小蟲ヲ食フ、頭纒長ニシテ平扁體

尾ニ小圓鱗アリ、珠文斑駁ニシテ鮫魚皮ノ如シ、

化石物中、往古繁殖シテ甚タ長大ナリシ動物ノ

形體、大蟾蛇ニ係屬シ、寢モ魁偉絶倫ナル者ヲ

Guanoctonus 名ソク、其一塊骨ヲ Silgale 林中ニ

イゴロドン

毒蛇

發見セリ、齒牙ノ造法大蟾蛇ト一樣ニシテ、大ナル脚蛇類タル疑ナシ、尾ノ長五十二尺半、體圍十四尺半、全身ノ長ヲ量ルニ、鼻ヨリ尾端ニ至ル七十尺ニ迄ヘリ、

毒蛇 第一圖 第十圖ナル者アリ、今區別シテ大蟾蛇

ニ係屬セル爬行族トナス、敢テ毒害ヲナス者ニ

非ス、昔時講恠ノ士、其毒蛇ニ似タルヲ以テ、一時

荒説シテ毒蛇トナス、猶荒唐龍アリト謂カ如シ、

遂ニ謬傳シテ名トナル、造説者ノ言ニ曰ク、毒蛇

ナリ、眼力甚タ烈シ、一瞪能ク物ヲ殛ス、而シテ之

博物新編 卷一 三十九

カ為ノニ翻テ其身ヲ亡ホス、若シ一ノ鏡面ヲ將
テ之ニ對セシムレハ、則チ其形鏡ニ映シ、眼光返
射シテ彼ノ目中ニ入ル、彼忽チ眩シテ倒ル、人ア
リ隨テ之ヲ捕フト、又曰ク、其哮聲畏ルヘシ、一ツ
ヒ吼ユレハ則チ百獸之カ為ノニ環標シ、皆其居
ノ遷ス、毒蛇獨リ其地ヲ占頌シ、特ニ王權ヲ執レ
リ、古ノ究理家ノ說ニ據ルニ、八足ニシテ翼ニ代
ルニ二ノ巨鱗ヲ以テス、頭形王冠ヲ戴クカ如シ
ト、凡ソ此諸說皆無稽ニ出テ、實ニ著テ講究セサ
ルノ過チナリ、傳ヘテ今ニ至レリ、然レトモ稗史

コカライス

野乘ヲ讀ム、亦此等ノ事ヲ知ラサルヘカラス、英
王第三世カ查嘗テ遊觀ス、某ノ貴女アリ、名ハ
兩眸殊ニ明媚ナリ、王之ヲ贊稱ス、*Black Pearl*
ナル者之ヲ聞テ王ニ獻ス、絶夕寵アリ、時人謂テ
曰ク、彼女ノ眼毒蛇ノ若シ、必スマサニ君王ヲ
殺スヘシト、蓋シ謬傳ノ說ニ因テ諧ヲ作スナリ、
*Snake Charmer*ト名クル者アリ、毒蛇ノ種ニ屬ス、蛇
鵲卵ヲ覆シテ生スル所ナリ、現ニ今人ノ毒蛇ト
稱スル所ノ者ハ、絶テ毒害ナク、且ツ綺麗ニシテ、
差水性アリ、即チ一ノ蟾蛇ニシテ、二至規ノ地方

博物新編 卷一

雷公蛇

冠帽毒

僅カニ産スルノ處アルノミ、體格一般大蟾蛇ニ似タリ、然レトモ領下ニ袋ナシ、而レテ脊上ノ鬣大蟾蛇ヨリ崇ク、鬣冠ノ如クニシテ、延テ奔流狀ヲ成シ、充行シテ尾半ニ至テ止ル、頗ル功用アリ、賴テ以テ水中ヲ游泳ス、鬣低垂スト雖トモ、行動ヲ碍ケス、頭頂ヨリ腦後ニ連ツテ奇袋アリ、大蟾蛇ノ領下ノ袋ノ如ク、大氣ヲ以テ放張セリ、其ノ一種アリ、袋皮特ニ巨大ナリ、其狀ニ因リ是ヲ冠帽毒蛇 *Plated back* 下名ツク、南亞美理駕ニ見ユ、茅三雷公蛇 茅廿ノ屬ハ、形質大拉相似タリ、並ニ

醜惡ナルモノトス、晝間暗處ニ伏シ、夜ニ到テ乃チ出ツ、巨眼爛々、瞳人舒縮スル、猫睛ノ如ク、小キ針孔ノ如キニ至ル、頭潤ニシテ扁ナリ、狀貌頗ル厭惡スヘシ、色彩暗黒或ハ蝦蟇ノ如キアリ、性劇毒ニシテ物ヲ傷害セス、世人其狀ノ兇惡ナルヲ以テ、謂テ害アリト為ス、信ス可ラサルナリ、指端ニ爪アリ、伸縮スル意ノ如シ、以テ昆蟲ヲ攫食ス、然レトモ、寂モ板援ヲ為スノ用ニ適ス、東西半球共ニ熱地ノ國ニ産見ス、足形特異ニシテ扁平ナリ、脚底能ク物ニ膠著ス、以テ峭壁ニ登リ、天板ヲ

變色蟾蛇

爬、蚊ヲ逐ヒ、蜘蛛ヲ驅ル、脚尖毒液ヲ出タス、其經
 過スル所ノ物ヲ食ヘハ、寂モ毒害ヲナス、
 第四變色蟾蛇三圖ハ、其屬僅小ナルトモ、體格他
 ノ脚蛇ト同シカラス、故ニ特ニ其種屬ヲ區別シ、
 次序ヲ設定セサルヲ得ス、其足形禽族ノ登類即
 チ鸚哥コトギス杜鵑トビ等ノ如ク、指相反向ス、前ニ三指、後ニ
 二指、樹枝ヲ攀ルニ便ナリ、而シテ舌形亦異ナリ、
 肥大ニシテ甚ク長ク、其端厚豐ニシテ、播雜狀ヲ
 成ス、能ク津液ヲ生シ、極メテ黏力アリ、以テ昆蟲
 ヲ舐食ス、長舌一夕七觸ルレハ、蟲身膠著シテ得

ラ逸ル、ナシ、遂ニ食セラル、ヲ為ス體中舌ヲ
 以テ寂モ疾運スルノ要部トス、又恒ニ食ヲ覓メ
 ス、數週間纔カニ一食ス、他ハ身ヲ收縮スルノミ、
 其食ヲ止ムルノ久シキヲ以テ、或ハ謂テ大氣ヲ
 引攝シ、生活スル者ト為ス、將ニ身ヲ動カサント
 スルヤ、形狀競肅、大ニ戒懼シテ以テ行ク、蓋シ四
 肢ヲ運用スルノ勢力足ラサル所アルナリ、然レ
 トモ、其樹枝ヲ緊捉スルノ際、纔カニ些カサカサ塊ノ拮力
 ヲ鬆開スルヲ見ル、又時ニ隨テ皮膚ノ色米ヲ變
 換ス、世此ヲ以テ奇トナス、然レトモ、獨リ此種ニ

止マラス他ノ生物モ亦變色スル者アリ蓋レ白
 黒ノ二色ト虹彩ノ七色トヲ攝取シテ以テ體ニ
 發露スルナリ其本色タル樹陰ニ處リ若クハ靜
 居スルトキハ淺藍ノ灰色トス漸クニシテ綠色
 ニ襯添シ或ハ青色ノ灰色ニ變シ或ハ濃黒ノ棕
 色ト成ル是ヲ極度トナス近來其理ヲ推究スル
 ニ血液ノ色澤筋膜ニ滾合スルノ度ニ隨テ變化
 シ或ハ適々肺臟ノ膨張スルニ由テ血液ヲ增益
 シ膚間ニ運廻スルノ量ニ隨テ變易スト面目頗
 ル奇怪ナリ眼巨大ニシテ凸出シ鱗皮アリテ眼

スキンク

球ヲ掩蔽ス其瞳子ニ中ルノ處小孔アリテ之ヲ
 觀ルフツラスル雙眼互ニ視ルヲ異ニス比如ハ一眼前ヲ看
 レハ一眼ハ背側若クハ上面ヲ看ルヘレ昆蟲ノ
 食フヘキ者近ツク有レハ身ヲ轉セシテ其來
 ルノ方ヲ知リ之ヲ飮ル蓋シ彼體シラカウニシテ容
 易ク舉動スルヲ得ス故ニ眼ノ功用此ノ如キア
 リテ特ニ之ヲ償補スルナリハタラキ化工ノ物ニ賦界ス
 ル各其用ニ適ス亦妙ナラスヤ
 脚蛇類ノ末級ヲ *Skink* 第廿四圖 屬ト曰フ漸ク蛇
 類ニ近シ脚蛇ト蛇トノ兩類ヲ線劃シテ明ニ區

博物新編 卷一 第三

別スル頗ル難シトス、足短小ニシテ體圓ク、全身
 鱗アリ、瓦ノ整駢スルカ如シ、舌舒張スル能ハス
 或ハ形狀多ク蛇ノ如クニシテ、獨リ二脚ノ露出
 スル者アリ *Jancaidiana* 第五圖ハ、其狀最モ一般
 ノ脚蛇類ニ近カク、四ノ短脚アリテ疾走ス、歐羅
 巴ノ南部ニ産スルノ種屬ハ、常ニ沙中ニ穴居ス、
 昔時之ヲ以テ藥能アリトシテ頗ル著名ナリ、然
 レトモ深ク信スヘカラス、西印度ニ一種アリ、空
 木中ニ居ル *Calypso* ト名ツク、稱シテ有毒ノ
 性質トナスト雖トモ、亦信據スヘキナレ、時トシ

スレンコト
ガイアン

カルレー
スラ

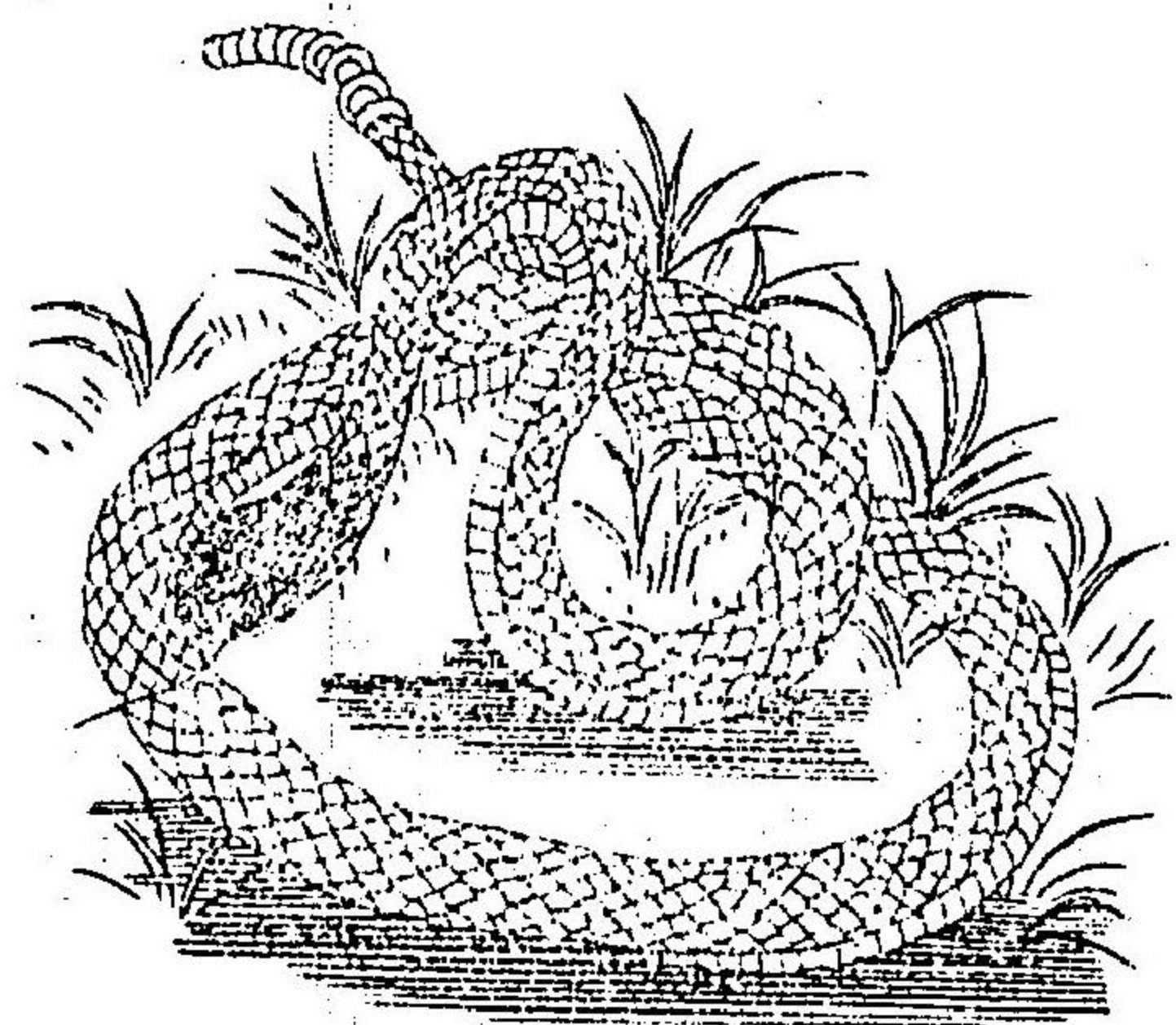
セプス

カルレス

ヒップス

ゴレス

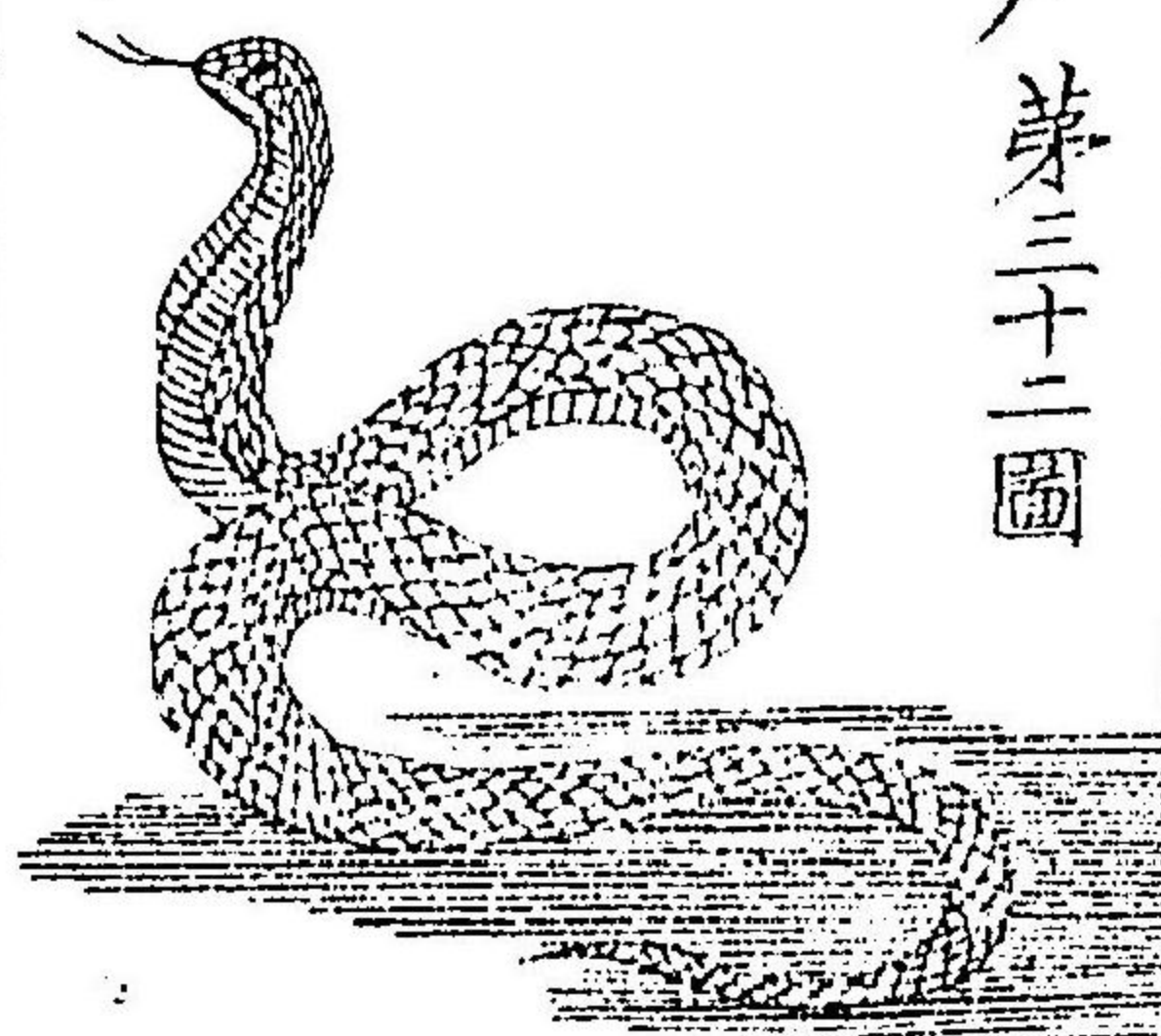
テ人ヲ齧傷ス、凡ソ此等ノ屬、熱地及ヒ燥土ニ産
 ス、*Scops* ト名クル者アリ、*Skink* ニ比スレバ
 取モ蛇ニ類似ス、脚尖小ニシテ趾間ハ隔セリ、間
 趾肉相連ツテ一トナル者アリ、脚體外ニ排出シ
 腕曲シテ鉤状ヲナス、*Chalcid* ナル者アリ、蛇體
 ニシテ脚小ナリ、狀貌特ニ蛇ノ異類ニ似タリ、*Scops*
 ハ前脚現出セズ、*Skink* ハ後脚ヲ缺クニ
 種ノ體狀慣性、概ネ蛇類中ニ載スル所ノ通常ノ
 盲蟲ニ符合セリ、



響尾蛇

第廿九圖

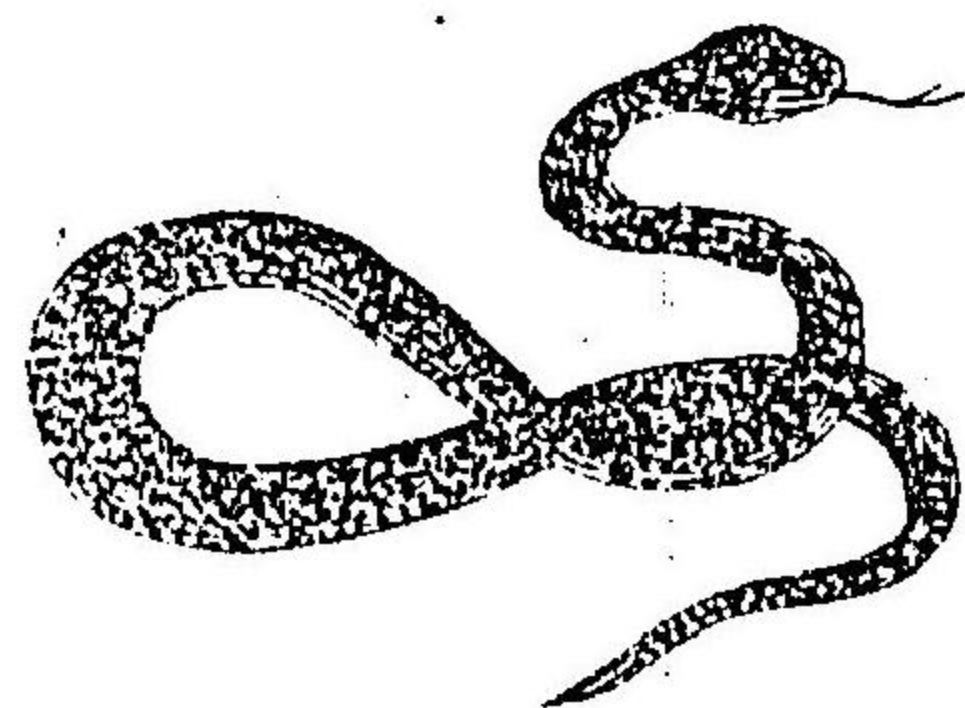
Rattlesnake



エスパ 第三十二圖

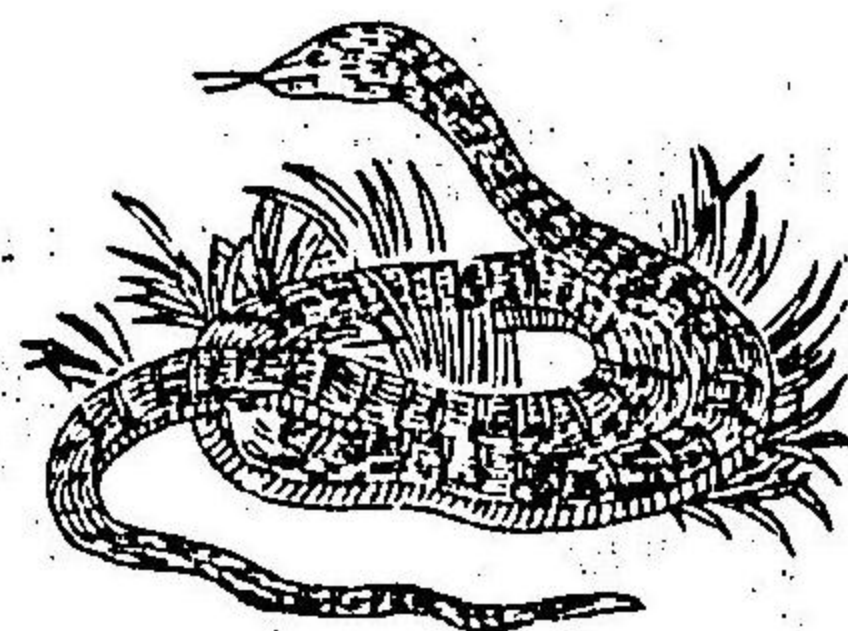
Asp

蝮蛇 第三十圖



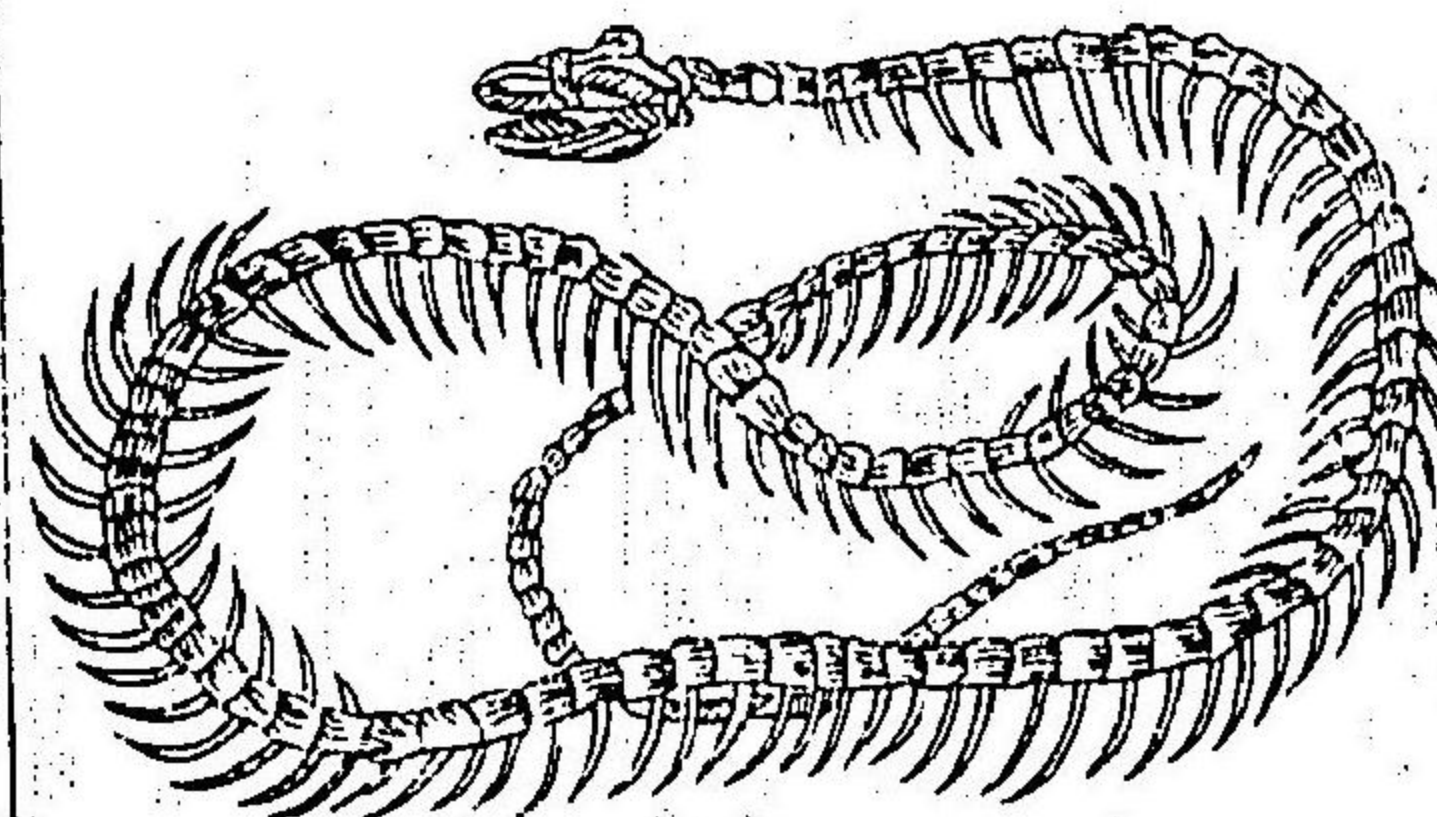
Viper

黑蛇 第廿八圖



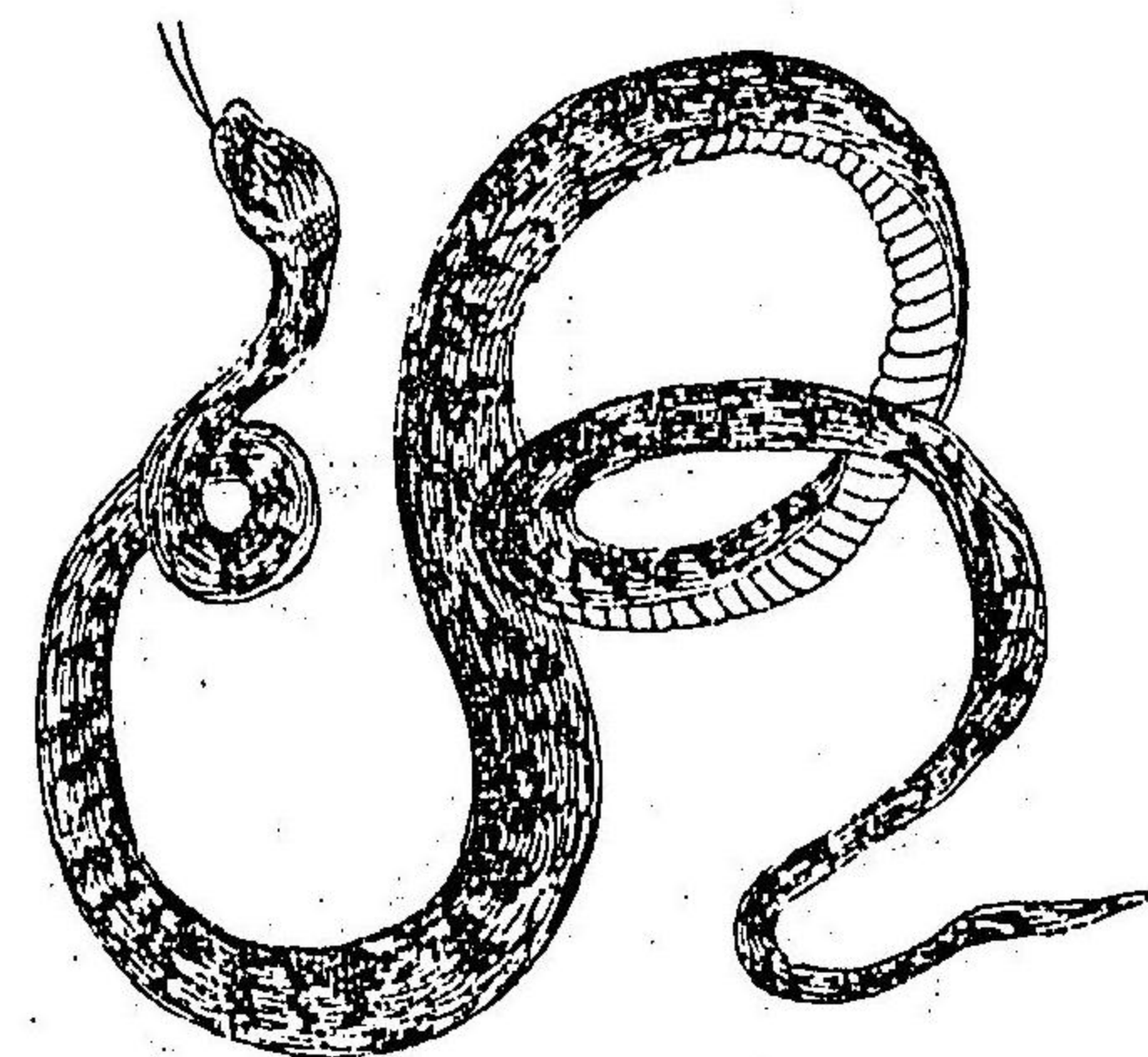
Black snake

蛇骨 第廿六圖



Skeleton of snake

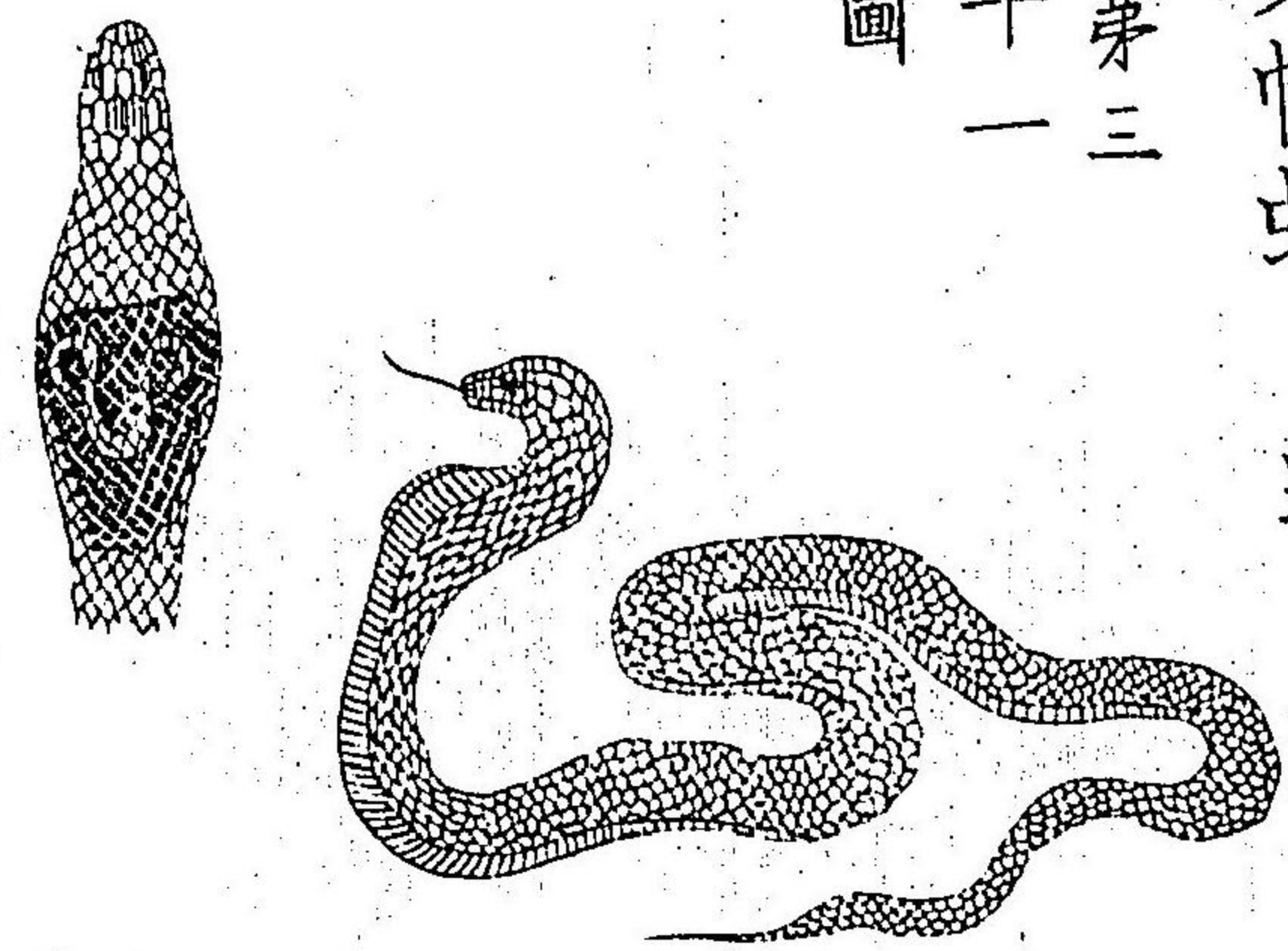
王蟒 第廿七圖



Roa Constrictor

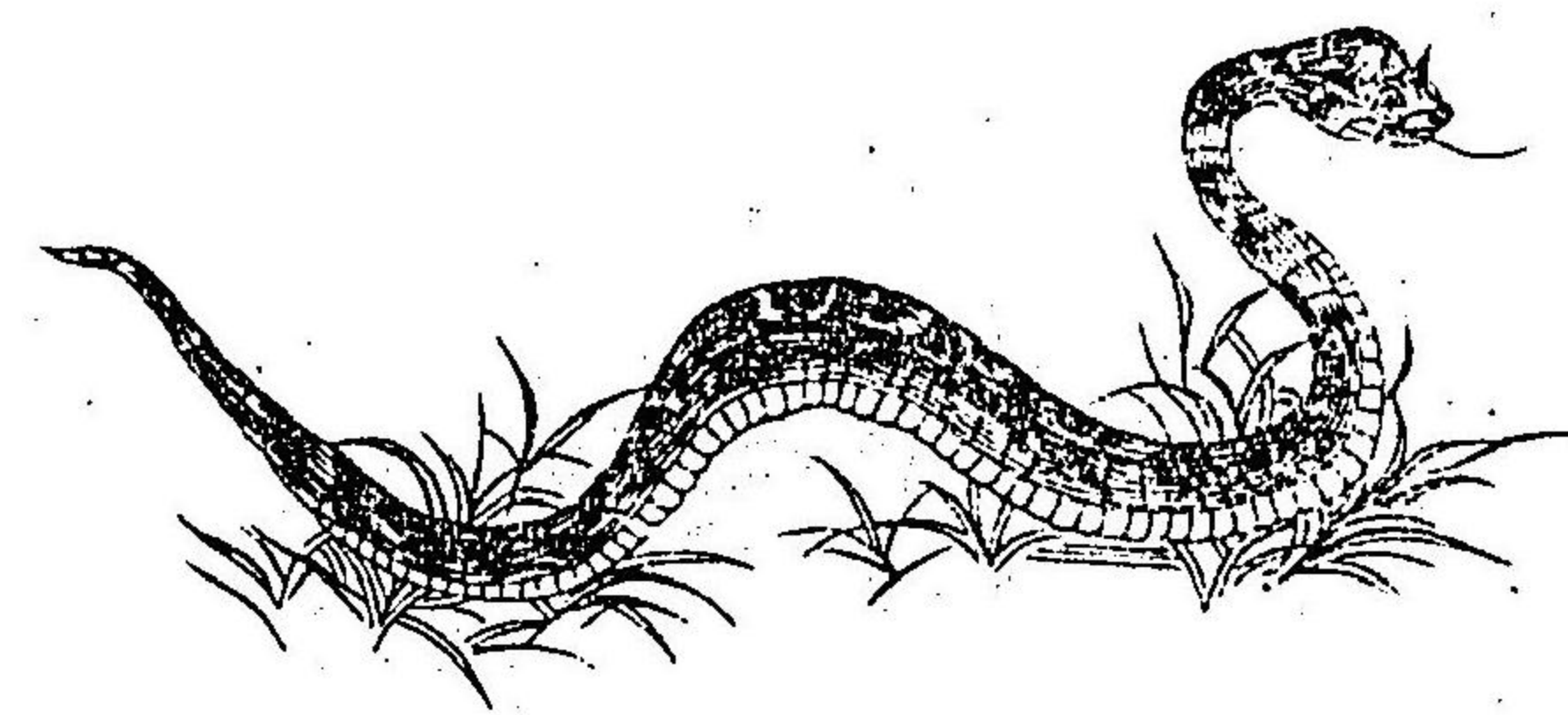
大幌蛇及頭

第三十一圖



Cobra de cappello and head

毒角蛇 第三十三圖



Cerastes Lemnides

第五級蛇類論

蛇類ノ行動ヲ為スヤ、四肢或ハ他ノ附著物アリ
 テ然ルニアラス、他ノ爬行族及ヒ一般ノ有脊族
 ト相異ナル、一目レテ了知スヘシ故ニ特ニ一級
 ヲ設ケ之カ區別ヲナス、一種足形ノ外現セスト
 雖トモ脚芽ノ^出テ脚蛇類ニ近似スル者アリ
 リ又兩脚長尾ノ蟾蛇ニ彷彿タル者アリ、然レト
 モ其四肢ヲ缺クト此ノ差異アルニ因テ蟾蛇ト
 相別ツ、故ニ齒牙ノ用鱗皮及ヒ内部ノ骨格トハ
 大率ネ蟾蛇ニ符合セリ、人或ハ其長軀ナルヲ以

テ、搭節部中ノ長蟲ナルヲ疑フ、然レトモ有脊ニ
 レテ搭節ノ類ニアラス、毎歲皮殼ヲ脱換ス寒ニ
 遭ヘハ則チ蟄ス、其皮殼ヲ褪下スル頭圍ヨリ始
 ム、指ノ手套ヲ脱スルカ如ク漸ク轉身シテ以テ
 出ツ、古代ノ史其體格慣性狀貌トテ假テ物ニ喩
 フルモノ多シ、今世猶ホ然リ、鱗皮柔滑、行ク委曲
 ニレテ濇滯セス且ツ毒アルヲ以テ之ヲ辯士ノ
 突梯滑稽詭説ヲ唱ヘ、世人ヲ誑惑スルニ譬フ、
 神杖頭ノ蛇ハ、古人ノ傳クル所ニシテ其
 能辯ノ神ナルヲ標スルナリ、*Shaman*ノ神ハ頭毛鬚

ナク、數條ノ蛇アリテ纏繞ス、蓋シ諸ヲ苦痛ノ義
 ニ取ルナリ、蛇ハ蟠屈シテ圈ヲナシ、口其尾ヲ銜
 ム、故ニ以テ無窮ノ比トナス、之ヲ要スルニ、人々
 若シ此ノ如キノ思想ヲ放棄シ、能ク彼ノ形狀ト
 其行動トヲ諦察シ、彼ノ成體中造格ノ法ヲ考究
 セハ、則チ唯ニ蛇ノ皮膚ヲ相スルニ止マラス、適
 タマサニ其全身運用ノ理ヲ會スル有ルヘシ、蛇
 ノ行クニ法アリ一ハ全身地ニ循フテ腹行ス、將
 サニ短縮セシ所ノ身ヲ伸ントスルニ方、肚下
 ノ鱗能ク後却ノ勢ヲ支ヘ、以テ前身ノ力ヲ輔ク、

猶如蚯蚓之細毛也。天前行天所如也。二、其身
 彎上シテ穹狀ヲナス、一彎一進尾ヲ頭邊ニ引
 接シ而シテ之ヲ矯整スル毎ニ頭ヲ前面ニ抛ツ
 其詢行ヲナス、肋骨ノ尖ニ藉ル、蓋シ彼ノ肋骨胸
 部ニ到テ縫合セス、脇間ニ在テ支柱シ以テ行動
 ヲ資ス、猶ホ夥多ノ短足アルカ如シ、又水ニ游ク
 ノ種屬アリ、而シテ家モ水性アルノ種ハ尾ノ豎
 扁ナルヲ以テ區別ス、此種ノ筋膜最モ緊密ニシ
 テ、鱗屬ノ一種ニ仿似セリ、若シ呼吸ノ機關ナク
 シハ幾ント別異シ難カラントス、蛇ノ體ノ宛柔

ニシテ屈曲スル脊椎ノ多少ニ應ス多キ者二百
 椎乃至三百椎前後互ニ吻合シ、每節杵臼相交リ、
 脱陷ヲ致サス、蛇ノ屬夥多、毒牙ヲ有スルヲ以テ
 類別ス、常齒ノ外更ニ有毒ノ大牙アリ、銳長ニシ
 テ管ヲ成ス、牙根線アリテ以テ繫結シ、毒ヲ線中
 ニ藏ス、其物ヲ咬ム、毒管中ヲ透過シテ傷口ニ注
 入、東方ノ弄法者、最毒ノ蛇ヲ使フニ、先ツ毒牙ヲ
 拔去リ、封蠟ヲ以テ其牙孔ヲ填塞シ、或ハ柔弱ノ
 物體ヲ饒シ數々之ニ嚙マレメ、其毒水ヲ澆消シ、
 以テ使法ノ戲ヲナス、其毒蛇タルヤ否ヲ辨スル

ハ、產生ノ狀ヲ異ニスルヲ以テ知ルヘシ、卵ヲ以テ生レテ化スル者ヲ常蛇トス、蝮蛇ハ則チ否ラズ、卵腹中ニ在テ化シ、胎ヲ以テ生ル、産狀極メテ勢力アリ、凡ソ蛇類ハ炎熱ノ氣候ニ生ス、温帯ノ種屬ハ其大サ其毒アル、回歸ノ線間ニ廣布スル者ニ比スレハ殊ニ劣レリ、今ケテ五屬トナス、第一 *Colubridae* 屬、王蟒ノ類ノ如シ、第二有毒蛇屬 *Elapidae* 屬、響尾蛇、蝮蛇及ヒ凡毒蛇ヲ總括ス、第三水蛇屬 *Hydrophiidae* 屬、第四兩頭蛇屬 *Amphisbelenidae* 屬、第五ハ慢蟲屬 *Chrysopeleidae* ナリ、皮裏ニ脚芽アリテ蟻

王蟒

ヒョウ

蛇ニ近似セル者トス、

第一 *Colubridae* 屬ハ、大頤巨口、其潤常ニ異ナリ、能ク生物ノ體ヨリ大ナル者ヲ吞ム、頤骨各様ノ塊

片ヲ以テ完成ス、兩邊互ニ開豁シ、上、腦骨ニ向テ活撤ス、此種中亞美理駕ノ王蟒、第七圖 及ヒ東大陸ノ *Synbranchon* ヲ以テ取モ特異ナリトス、長シテ

三十尺ヨリ四十尺ニ及フ、體ヲ大ナル幾ント人ノ如シ、喜ンテ生物ヲ襲撃シ、又纏繞シテ諸獸ヲ

細殺ス、已ニ抗スルモノアレハ則チ筋力ヲ竭シテ之ヲ絞ス、其力極メテ大ナリ、能ク諸獸ヲ拉摧

尾ヲ以テ樹ニ纏ヘハ體力益々加ル、常ニ樹間
 ニ在テ諸獸ヲ覘カル者アレハ突然一咬身ヲ
 以テ細著ス、細ル多時ニシテ物體摧折シ、其骨幹
 ノ破碎スルヲ俟テ、然シテ後方メテ之ヲ吞ム、食
 フ所ノ物食管中ニ在リ、凸起シテ瘤ノ如ク、大小
 辨ス可シ、數日若クハ數週ヲ經テ消化ス、飽ケハ
 則チ動カス、饑レハ則チ出テ食フ、毛髮角ノ類消
 化シ難キ者アレハ、一タヒ食テ而シテ後ニ之ヲ
 吐ク、世ニ蚰蛇鹿ヲ吞ム、骨皆鱗甲ヲ穿テ出ツト
 謂フモノハ非ナリ、王蟒ハ糞孔ノ邊ニ二骨ノ高

花斑蛇
 繡花蛇
 狗蛇
 園蛇

コルブル

突トルアルヲ以テ、他ノ蛇類ニ別ツ、是ヲ後體ノ
 基骨トナス、南亞美理駕ノ花斑蛇 (*Spotted Python*) 東印
 度ノ繡花蛇 (*Embroidered S.*) 及ヒ狗蛇 (*Guinea S.*) 園蛇
Gardner's S. 皆蟒種ナリ、往昔羅馬ノ盛ニナリシ時、*S.*
goudas ノ河岸ニ蛇ノ窟居セルアリ、一百二十
 尺ノ長アリト云フ、*Calender* ハ王蟒ニ比スレハ
 至テ小ナリ、體恒ニ巨大ナラス、通常ノ種屬トス、
 又獸蝦蟇及ヒ禽類ヲ吞ム、其法王蟒ノ大獸ヲ拉
 殺スルト相同シ、澤中ニ見ユ、喜ンテ水ニ游ク、肺
 臟膨脹スレハ水面ニ浮游ス、體軟軟ニシテ身ヲ

博物新編 卷一

辛

黒蛇

支撐スルノ勢力毒蛇ヨリモ大ナリ、現ニ一ノ
*Uroborus*ヲ以テ樹枝ニ倒懸スレハ、彼其體ヲ反
 シ首ヲ翹ケ上ツテ尾端ニ到ル、是其驗ナリ、有毒
 蛇ノ如キハ能ハス、凡ソ此種小ナル者ハ人ノ危
 害ヲナサス、且ツ之ヲ弄シテ畏レナカルヘシ、衆
 屬鱗紋素レス、光采燦然タリ、又黒蛇第二十ナル
 者アリ、亞美理駕ニ産ス、色采暗黒ナリ、故ニ名ツ
 ク、二種アリ、並ニ *Colubridae* ノ種ニ屬セリ、
 第一有毒蛇屬ハ、並ニ胎生ニシテ、外貌 *Colubridae*
 屬ト大同小異ナリ、唯毒牙アルヲ以テ別ヲナス、

響尾蛇

熱帯ノ地方最モ多シ、其特ニ毒害ヲ為ス者ハ、大
 率熱國ニ屬シテ、温帯地方ニハ甚レカラス、利
 太國タリ蝮蛇ノ蝮ニ遇フモノ、概ニ皆顛狂ヲ發ス、然
 レトモ死スル稀ナリ、熱地ノ蛇ノ如キハ、一齧ノ
 後數時ニシテ能ク人及ヒ他ノ大動物ヲ斃ス、小
 動物ハ瞬間ノミ、此種中ニノ魁首アリ、一ヲ響尾
 蛇第九圖ニト曰ヒ、一ヲ蝮蛇第十圖ト曰フ、響尾蛇ハ、
 衆蛇中竅毒ノ者タリ、尾後ニ一靦アリ、各片ノ圈
 骨ヲ接合シ、箇々相承ケテ成ル、毎歳二次皮ヲ蛻
 ス一蛻コトニ一圈ヲ加フ、其靦響ヲ作ス、蟬鳴ノ

名

如シ、蛇行ノ響ヨリ大ナラス、八九尺ヲ隔テ、聞
クヲ得、ハ、苛モ驚懼ノ心アル、人ヲ噬ムノ意ア
レハ、則チ鳴ル、人如シ、噬ルレハ、立コロニ命ヲ斃
サル、萬モ治ス、ハ、キナシ、*Proterobates*、ト各クル種ア
リ、長、四尺ヨリ八尺ニ及フ、亞美理駕ニ界限セリ、
禽類及ヒ鬆鼠其他ノ小動物ヲ食フ、傳言フ此蛇
妖術アリ、諸動物ヲ呪誘シテ、巳ノ口中ニ入ラシ
ムト、是説ノ妄ナル、固ヨリ論ナシト雖トモ、適々
一事ノ相類スルアリ、響尾蛇ノ一タヒ現スルヤ、
遇フ所ノ諸動物皆為ニ罨伏シテ、敢テ脱スル能

蝮蛇

ハス、遂ニ啖食セララル、又一種ノ狀貌特ニ醜、
ルアリ、其正シク、*Scorpio*、視スル真ニ畏ルヘシトス、遠
ク之ヲ望ムモ、亦人ヲシテ、*Scorpio*、心ニ、認マテ以テ惡
蛇トナサシム、然レトモ、性懶ニシテ、*Scorpio*、
蛇、*Scorpio*、徐行シ、人ヲ傷害セス、*Scorpio*、スレハ、則チ、*Scorpio*、
亦氣候ノ熱ニ隨テ多少ノ毒害ヲナセリ、*Scorpio*、ハ、
狀行響尾蛇ト異ナリ、多ク、*Scorpio*、*Scorpio*、
然レトモ、形體甚シ美ナラス、舉動亦僅カニ、*Scorpio*、
ス、鱗皮暗黒ニシテ、色、*Scorpio*、*Scorpio*、
トス、所謂蝮蛇手ヲ螫セハ、壯士腕ヲ斷ツトハ、是

大幌蛇

トウゴクニ
ル

ナリ、此種ノ最モ顯名ナル者ヲ大幌蛇第一圖ト
 曰フ、東印度ニ界限ス、葡齒牙人ノ名クル所ナリ、
 怒レハ則チ皮ヲ頸後ニ展開ス、狀幌ノ如シ、故ニ
 名トナス、長サ五尺ヨリ六尺ニ至ル、印度ノ土人
 之ヲ捕ヘ、毒牙ヲ拔去リ、以テ展覽ニ供ス、性音ヲ
 喜ム、笛聲起レハ則チ頸ヲ籠中ニ伸ヘ、幌ヲ展ヘ
 テ聽ク、笛聲止メハ復タ籠中ニ蟠マル、東方毒蛇
 ノ最ナル者ナリ、一名眼鏡蛇 (*Spectacled*) 頭ノ後邊
 一紋アリ、狀眼鏡ノ如クナルヲ以テ目ス、英人常
 ニ此名ヲ稱セリ、西印度ニ廣布スル毒蛇アリ、シ

gondolephalus ト稱ス、狀行大拒響尾蛇ニ彷彿

ス但後尾ニ圈骨ナシ、大ナル者ハ長サ八九尺然
 レトモ歷年兵革ノ餘今其滿尺ナル者ヲ見ル少
 ナシ、島中甘蔗園サトウキビアリ此蛇頗ル多シ島人砂糖ヲ
 製スル者一タヒ噬ルレハ則チ往々命ヲ喪フ黒
 奴寂モ之ヲ畏ル蓋シ甘蔗常ニ刈獲刈セス、故ヲ以
 テ蛇蕃生スルナリ、蟾蛇小禽ヲ食フ又殊ニ歐洲
 ヨリ遷殖スル所ノ鼠ヲ嗜ム、其螫サシヲ致ス他ノ
 有毒蛇ノ如シ、唯物體ノ強弱傷創ノ淺深及ヒ螫
 後ノ時間トニ因テ毒ノ全體ニ侵入スル同シカ

毒角蛇

ラス其輕重ニ隨テ害ヲナスモノナリ、冰國通常
 蝮蛇ハ、特ニ色采ヲ變換ス一變コトニ人ヲレ
 テ其新種ナルヲ疑ハシム其換色スル、居ル所ノ
 地ニ隨テ異ナリ、比如ハ地黒赤ナレハ色亦黒赤
 ナルカ如シ、性寂モ乾燥ノ地ヲ愛ス、常ニ巖石沙
 地ノ處ニ出テ身ヲ大陽ニ曝ス食フ所 *Scolobrus*
 ト同シ唯之ヲ摧折スルノ法異ナリ腹恒ニ饑エ
 ス故ニ食ヲナスノ間頗ル時月ヲ隔ツ、或ハ三四
 頭ノ鱗鼠イタチヲ以テ終年ノ食ニ充ツルニ至ル、毒角
 蛇三トト名クル者アリ、額ニ雙骨アリ凸出シ

エス

テ角ノ如シ、青黒ノ灰色ニシテ、其貌兇惡ナリ極
 メテ毒種トス此種中尾豎扁ニシテ差水性アル
 者ヲ收拾セリ、蝮蛇ノ屬尚ホ數種アリ、今枚舉セ
 ス、*Scorpio* 第三ト名クル毒蛇アリ、埃及ニ見ユ、
 三尺ヨリ五尺ノ長ニ至ル、色采黒緑ナリ棕色ノ
 線アリテ其體ヲ紆回ス印度ノ大幌蛇ニ仿類セ
 リ、能ク身ヲ直立ス、埃及人目レテ自ラ防クノ狀
 トナス、驚スレハ必ス人ヲ斃ス、痛楚ヲ覺エス、紀
 元三十年前埃及國ニ女王アリ、*Blacopatia* ト
 曰フ、容姿艷麗稱レテ美人トナス、時ニ羅馬ノ將

Mark Antony 新クニ希臘ヲ破リ、執甚ク強熾ナ
リ、女王ヲ邀ヘ地中海ノ北東岸ニ會シマサニ謀
ル所アラントス、女王之ヲ聞キ、乃チ鍔金ノ龍舟
ニ駕シ、錦帆銀艫舟子皆美女ヲ以テ紛々行々樂
ヲ奏シテ *Shalva* 河ヲ下ル、仙樂風ニ飄リ艫光
波ニ閃ク、舟漸ク岸ニ達ス、*Mark Antony* 女王ノ美
ナルヲ見テ恍惚自失シ、復タ他意アルナク、深ク
相親愛シ、頗ル醜聲ヲ聞ク、別將 *Decimus* 猝ルニ
攻テ之ヲ殺ス、女王マサニ走レトス、自ラ謂ヘラ
ク其俘虜トナリ垢辱ヲ蒙ラレヨリ、寧ロ死スル

水蛇

ニ如カスト、乃チ親ラ此蛇ヲ執テ之ヲ胸ニ著ク、
霎頃ニシテ全體麻痺シ、遂ニ死ス、其毒烈ナル此
ノ如シ、

第三水蛇屬ハ、其種衆多ナラス、東印度ノ諸海河
ニ見ユ、尾及ヒ體ノ後部、壓搾力アル魚族ノ尾ニ
比ス、故ニ水中ニ游泳スル、特ニ自由ヲ得時アリ
テ水面ニ浮ヒ呼吸ヲナス、色采光輝アリ、其水中
ニ在テ人ノ傷害ヲナス鯊鱔ニ比スレハ更ニ險
レトス、印度ノ諸河及ヒ水道ニ廣布スルノ一種
ハ、諸動物ノ来リテ飲浴スル者ヲ噬ス、海中ニ居

ルノ屬ハ魚類ヲ食ス、又時ニ來テ航海ノ船ヲ襲
フコアリ、

兩行蛇

第四兩頭蛇屬ハ、其種至テ稀ナリ、蛇及ヒ慢蟲ノ
間ニ係屬ス、頭尾並ニ進行スヘレ、故ニ是ヲ兩行
蛇 (Double S.) ト曰フ、全體濶サヲ同クシ、兩端一樣
ナリ視テ辨スヘカラス、眼微小ニシテ無キカ如
シ、生線獨リ南亞美理駕寂熱ノ部分ニ限レリ、世
謂テ有毒トナス、然レトモ毒害ヲ為ス者ニ非ス、
蟻及ヒ他ノ小蟲ヲ食フ、頭骨ノ開豁セサルニ因
テ他屬ト區別ス、

盲蟲

第五慢蟲屬ハ、蟾蛇及ヒ蛇類ノ二級相混合セシ
一種ニシテ或ハ之ヲ蟾蛇ト名ツケ、或ハ之ヲ蛇
類ト喚フ、歐州ニ各種アリ、貌利太國ノ種ハ人ヲ
害セス、齒甚タ小ニシテ毒牙ヲ有セス、怒レハ則
チ人ヲ螫ス然レトモ皮膚ニ透ル入セス、常ニ岩石
ノ間ニ居ル、小蛙ヲ食フ、銀灰色ニシテ背ニ一帯
ノ黒線アリ、其ノ種ハ糞孔ノ邊ニ一箇ノ凸骨ア
リテ後部ノ基骨トス、或ハ前部ノ肋骨胸部ノ軟
骨ニ由テ編結セシ者アリ、其常種ハ一ニ盲蟲
(Lindworm) ト名ツク、其眼至微ニシテ光アリ、世人察

玻璃蛇

セズ、遂ニ誤テ盲ヲ以テ稱ス、性毒ナシ、蝮蛇及ヒ
 他ノ昆蟲ヲ食フ、一説ニ蝦蟇鼯鼠及ヒ鳥ヲ食フ
 ト謂フ者ハ是ニ非ス、蓋シ彼ノ頤骨^{顎骨}活^動開^セズ、故
 ニ咽^嚥喉^小ニシテ吞^嚥スル能ハサルナリ、^{驚駭}ス
 レハ則チ體ヲ地ニ抛^キテ、幾^ント抽^縮ノ狀ヲナス、
 筋肉極メテ脆ク斷テ兩段トナル、是ヲ以テ屢々
 尾ヲ失フ者アリ、然レトモ年ヲ閱レハ隨テ^再復
 セリ、亞美理駕ニ此種ノ大ナル者アリ、二尺ノ長
 ニ及フ、其脆弱ナルヲ以テ稱シテ玻璃蛇^(Glass Snake)
 Serpenti 曰フ、

櫻井久 圖

大森惟中博物新編後集第一卷

博物新編

五

大森惟中編纂

東京小石川竹早町
三十五番地

明治七年十二月三日官許

同八年十二月成刻

小石川大門町

青山清吉

東京書林

神田通新石町

同 出店

